

令和5（2023）年度

教職課程

自己点検評価報告書

川村学園女子大学

令和 6（2024）年 3月

川村学園女子大学 教職課程認定学部・学科一覧

- ・文学部（国際英語学科、心理学科、史学科、日本文化学科）
- ・教育学部（幼児教育学科、児童教育学科）
- ・生活創造学部（生活文化学科）

大学としての全体評価

川村学園女子大学では、建学の理念である「自覚ある女性」「社会への奉仕」の実現のため、教員養成に力を注いできました。大学全体では自己点検を重ねて来ましたが、教職課程に特化した自己点検も昨年からは開始しました。本年も概ね目標を達成しており、自己点検としては合格と判断します。

しかし各養成課程の特徴ある、効果を生んでいる教育実践が、教員間で全ては共有されていないという課題は依然存在しています。その改善に早急に取り組む必要があります。ICTの活用も益々図る必要があります。

このような課題発見のためにも、今後も、自己点検を含めたPDCAをよりよく展開していきたいと考えております。

川村学園女子大学

学長 西川 誠

目次

I	教職課程の現況及び特色	3
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	5
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	5
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	10
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	13
III	総合評価	16
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	17
V	現況基礎データ一覧	18

I 教職課程の現況及び特色

1. 現況

- (1) 大学名：川村学園女子大学
- (2) 学部名：文学部、教育学部、生活創造学部
- (3) 所在地：千葉県我孫子市下ヶ戸 1133 番地（文学部国際英語学科以外）
東京都豊島区目白 3-1-19（文学部国際英語学科）
- (4) 学生数及び教員数（令和 5（2023）年 5 月 1 日現在）

学生数 文学部：教職課程履修者 43 人／学部 447 人

教育学部：教職課程履修者 152 人／学部 171 人

生活創造学部：教職課程履修者 28 人／学部 225 人

教員数 文学部：教職課程科目担当 21 人／学部全体 29 人

教育学部：教職課程科目担当 19 人／学部全体 19 人

生活創造学部：教職課程科目担当 9 人／学部全体 20 人

（内、教育委員会との交流人事 0 人）

2. 特色

川村学園女子大学は、文学部、教育学部、生活創造学部の 3 学部（8 学科）、大学院人文学研究科（3 専攻）から成る私立総合大学である。我孫子キャンパスと目白キャンパスの二つのキャンパスで、843 名の学生が学んでいる。小規模の大学だからこそ可能なきめ細やかで丁寧な教育を特色としている（ホームページ「本学の強み」）。教職課程においても少人数での指導が中心であり、このことは、後述する自己点検評価においても明らかにように、本学の教職課程で学ぶ上での大きなメリットとなっている。教職課程は、表 1 の通り設置されている。

毎年の教員免許状取得者は年度によってばらつきはあるものの、およそ 100 名程度で推移している。このうち教育学部の卒業生を中心に教員を輩出している。そのほとんどが千葉県や茨城県で教職に就いており、地域社会の発展に寄与している。

学部	学科	幼稚園一種	小学校一種	中学校一種	高等学校一種	栄養教諭二種
文学部	国際英語学科			英語	英語	
	史学科			社会	地理歴史	
	心理学科				公民	
	日本文化学科			国語	国語	
教育学部	幼児教育学科	○				
	児童教育学科		○			
生活創造学部	生活文化学科			家庭	家庭	○

表 1 学科における取得免許状一覧

さらに本学では、所属する学科において取得できる教員免許を基礎免許として、他学科の免許を取得することも可能である。教育学部児童教育学科の学生が小学校一種免許状の他に中学校一種免許を取得するなど、この制度を利用して毎年複数の学生が二つの免許を取得している。この制度は、現在、教員養成改革において小学校教諭と中学校教諭の両免許併有が促進されていることに鑑みても、学生の教職キャリア支援に資する、本学の教職課程の特色と言えるだろう。

Ⅱ 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1－1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

川村学園は、大正 13（1924）年川村文子によって創設された「川村女学院」を母体とし、「感謝の心」を基盤とした「自覚ある女性」の育成による「社会への奉仕」を教育理念として教育活動を行ってきた。昭和 63（1988）年に開設された川村学園女子大学もこの理念を受け継ぎ、女子教育に携わってきた。知的能力の向上を前提として学生個々人の人間性の調和ある発達と自らの社会的使命を自覚し社会の有用な一員になり得る人材養成を目指している。各学科の教育課程においても、建学の教育理念をもとに、以下で述べるような教員養成に対する理念や求める教員像が定められている。

文学部国際英語学科では、英語力と国際的な視点を備えたコミュニケーション力を持ち、生徒たちに英語運用能力だけでなく、異文化への関心や理解、国際社会を見る目を身につけさせることができる教員の育成を目指している。史学科では、各地域・時代の歴史・地理に関する知識を基に、現代社会の諸問題の解決に応用し得る実践的技能と創造的思考力を身につけ、歴史学地理学を学習することの個人的社会的な意義を伝えられる教員養成を目指している。心理学科では、人および社会の特質、成り立ちと今日の問題について学習し、現代の社会とそこに生きる人間をよく理解し教育できる教員の育成を目指している。日本文化学科では日本の文学、言語、伝統・文化を深く理解し、様々な視点から日本文化を捉えられる国語科教員の育成を目指している。

教育学部幼児教育学科では、幼児教育者としての専門性だけでなく人間として生きる基礎力を有し、幼児および保護者への共感的理解のできる教員の育成を目指している。児童教育学科では、学校における問題が多様化・複雑化するなかで、時代に対応した実践力のある小学校教員を育成することを目指している。

生活創造学部生活文化学科では、生活者・消費者として生活全般を見渡せる社会学的素養と豊かな生活を創造する実践力を有し、現代社会が抱える生活の諸問題を考察し、問題解決ができる家庭科教員育成を目指している。栄養教諭の養成においては、児童生徒を取り巻く課題を踏まえ、望ましい食習慣の形成を促し、食文化の継承、自己管理能力の育成、豊かな心、社会性を身に付けた教員の育成を目指している。

〔長所・特色〕

上記の理念や教員像の教職員・学生間の共有、学修成果の可視化について、いくつかの方法を通して、その実現に努めている。

- ① カルテと呼ぶポートフォリオの活用を行っている。児童教育学科では入学時、中高教職課程では教職課程履修開始時に「教職課程履修カルテ」を配布し、教職理解の一環として教師像について考えるために活用している（資料 1－1－1）。幼児教育学科では「保育・教職実践演習カルテ」で育むべき学修成果を可視化している。「栄養教諭履修カルテ」においても、ふさわしい栄養教諭について考えられるように工夫している。
- ② 教職課程を履修する学生と、教職センターの教職員が出席する教職課程ガイダンスを定期的に行い、本学として求める教員像等の周知をしている。
- ③ シラバスで各授業について、ディプロマポリシーとの関連や、学修成果を可視化している（資料 1－1－2）。
- ④ 授業こそが、そうした理念・教員像を実現するために最も重要な場である。各学科ともそれを体現するために構築されたカリキュラムを有しており、それに沿った教員養成を目指している。各学科の授業での取り組みの具体例を挙げる。

コア・カリキュラムの各分野に該当する専門科目について説明し、大学英語教育学会編の『言語教師のポートフォリオ』を配布し、将来の教師像や教職に必要な項目の習得状況を記入させ、省察できるようにしている（国際英語学科）。実践的技能・創造的思考力・論理的思考法や発信力を養うために発表と討論の経験を積ませている（史学科）。社会心理学・発達心理学・臨床心理学分野の学修を通し、他者との共生による社会への参加、定型・不定型発達の特徴・課題や現代青年の心身の問題を理解し、支援できることを目指す（心理学科）。日本の伝統や文化を理解し、世界に発信できる実践力養成の科目、さらに美術、伝統芸能、民俗などに関する科目群を設け、国語教育の背景となる日本文化を多様な視点から学習する（日本文化学科）。

「幼児教育体験学習」において、様々な共同作業を通じて目標とする保育者像の実現を目指す（幼児教育学科）。積み上げ型で小学校の各教科と教育法を履修していくとともに、1年次から学校体験を重視し、理論と実践の往還に努めている（児童教育学科）。

家庭科教員として、変容する社会を理解し、ライフデザインを構築できる力、衣・食・住・家庭分野での生活の質やマネジメントを探究する力、食に関する専門的な技能・能力を有することを目指している。栄養教諭では、栄養、健康、食品、学校給食に関連する基礎的知識、技能の習得とともに、目指す栄養教諭像等について対話による学びを深めている（生活文化学科）。

〔取り組み上の課題〕

上記の通り、本学の教職課程においては、ポートフォリオ、ガイダンス、シラバスなどでの理念や教師像の学生への具体的提示を実施し、授業においてそれらの理念や教師像に沿った教員を養成するために様々な工夫が行われている。したがって、学生は具体的な目標やラーニング・アウトカムが示されることで、見通しをもって学ぶことができ、なおかつ自らの学びを省みながら学習を進めていける。

しかしながら、教員間で教職課程の理念や教師像の共有を組織的に行っているかという点に関しては課題が残る。もちろん、各学科の学科会議や教員間の日々の関わりの中で自然と共有されていると考えることもできるし、教育学部幼児教育学科では、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有するため月に1回以上の実習担当教職員ミーティングを開き、生活文化学科でも家庭科の目標及び目指す教師像を共に認識するために定期的に勉強会を開いている。教職課程の理念の共有を前提として、各教員が教育を改善していくことが求められていることに鑑みれば、教職センターでの全体的共有、上記2学科以外の学科においてこのような理念や教師像を共有するための場を意識的に設ける試みが行われてもよいと思われる。これに関連して、学科間やセンター員同士での情報共有を促進するための新たなミーティングを準備中である。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料1-1-1：中高教職課程「教職課程履修カルテ」（『令和5年度教職課程自己点検評価報告書データ集』データ1）
- ・資料1-1-2：中高教職課程「教職論」のシラバス（『令和5年度教職課程自己点検評価報告書データ集』データ2）

基準項目1-2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

本学の教職課程には、教職課程認定基準における必要担当者数を上回る専任教員を配置し、教職センターを中心に研究者教員・実務者教員・事務職員が連携し、協働して教職課程を運営する体制が整っている（資料1-2-1）。同センターは、運営会議で年間の活動計画を立案し、学生に対して個別相談や指導等の支援、履修指導、教員採用試験に向けた対策支援や情報提供、教員免許状の一括申請に関する業務、地域や教育委員会との連携等を担っている（資料1-2-2）。また、毎年『教職センター年報』を発行し、所属する教員が論文・教育実践等を発表・共有できる。

他に、教職課程に関わる組織として、学長の諮問機関である教職課程委員会が教職課程の円滑な運営を図るために設置され、教職科目の編成や、教育実習の計画・指導等を担っている。

前期と後期に実施している授業評価アンケートの活用も教員の質向上のための組織的取り組みとして挙げられる。評価内容は、「授業の進め方」に関する 7 項目、「学生の行動・理解」に関する 6 項目と自由記述から成り、今年度の授業を改善するための客観的なデータの一つである（資料 1－2－3）。また、全教員が前・後期提出するティーチングポートフォリオも、授業改善に資する取り組みとなっている（資料 1－2－4）。

また、FD や SD も教職課程を組織的かつ協働的に履行するための重要な取り組みである。普段教職課程に関わることがほとんどない教職員に教職課程への理解を深めてもらう重要な機会となっている。令和 5（2023）年度は、11 月 22 日に「教職課程自己点検評価について－ICT 活用の取り組みを中心に－」というテーマで、全学の教員が参加する形で FD が行われた（資料 1－2－5）。

教職課程の質向上としては、教育が有効に機能するための施設・設備の整備も重要である。ICT 教育環境の適切な整備として、iPad を学生全員に配布し、Microsoft 365 のアカウントを教職員・学生に付与し、Teams をはじめとしたアプリを活用できる環境を導入している。教職課程の授業においても、授業そのものを円滑に進めるだけでなく、教員の資質として求められる ICT 活用のスキルを身につけるためのツールとして、様々な形で活用されている。

〔長所・特色〕

ICT 教育環境の整備の結果として、iPad や、Teams や PowerPoint といったアプリを用いた円滑な ICT 教育が可能となっている。Teams による資料配布や課題提出（各学科）、模擬授業等でのパワーポイント活用の指導（国際英語学科、史学科、幼児教育学科、児童教育学科、生活文化学科）が挙げられる。また、特色ある例としては、「英語科教育法」PC から東京学芸大学の 21CoDOMoS を視聴して、実際の授業の様子を学習したり、「リスニング」等での音声ファイルの共有と習熟度に合わせた学習をしたりといった工夫（国際英語学科）、「国語科教育法Ⅲ・Ⅳ」での板書のシェア、授業中の意見集約や模擬授業の授業評価シートの集約・共有での ICT 活用（日本文化学科）、配布資料やスライドを事前公開することによる予習・復習の促し（心理学科）、制作物の経過記録や教材製作での iPad 活用、双方向型の学修ノートの提出での Teams 活用（幼児教育学科）、「理科」「理科教育法」におけるプログラミング（MESH・Scratch・micro:bit）の利用、「理科教育法」デジタル教科書の演示（児童教育学科）、フェイク動画を学生が探してきて、授業中に比較検

討し正しい情報の選択の仕方を学ぶ授業（生活文化学科〔家庭科教員養成〕）、独立行政法人教職員支援機構で配信されている動画を活用、演習用ツール「食育プライミングシート」を提示し、グループワークを進め、よりよい授業のあり方について検討する授業（生活文化学科〔栄養教諭養成〕）などが挙げられる。

〔取り組み上の課題〕

授業評価アンケートでは、IR センターによる分析が FD において示されるため、教職課程の枠に囚われずに大学全体の中で自らの授業実践を捉えることができる。また、教職課程科目とそれ以外の科目との比較において分析することも可能となる。たとえば、「教員の熱意」や「学びへの意欲（もっと勉強したい）」「受講態度の積極性」などにおいて、全学と比較した場合、多くの学校種の履修生が肯定的に評価している一方で、「速さの適切さ」「理解度に沿っているか」といった項目では、同じか下回る結果も散見される。（資料 1－2－3）。

教員が教職課程の授業改善につなげ、理念や教師像を共有し、それに向けた教育に関する情報を得るには、授業評価アンケートの上記の質問項目では不十分な場合がある。上記課題をより詳しく分析するために質問項目の適切な設定を行い、より実質的な授業改善につなげていくことが求められている。

また、ICT 環境については課題が残る。ひとつは、環境が整備されても、活用が不十分な点である。iPad、Microsoft Teams を活用した資料配付、アクティブ・ラーニングの実践例は多かった。他方、電子黒板を利用する科目は、「理科教育法」など少数に留まる。また、デジタル教科書を取り扱う科目も、「理科教育法」「算数科教育法」などに限られる。現在、ICT 環境の導入が急速に進んでおり、こうした機器や教材にはアナログ教材とは異なる特有の使い方がある。それを熟知していれば、その特性を十分に発揮した授業を行うことができる。したがって、教職課程の学びにおいて、それらの扱いに慣れておく必要があり、教員が積極的に授業に導入することが求められているといえよう。とはいえ、環境面を十全に整備することには制約もある。そのような中でも、たとえば電子黒板がない教室でも、「英語科教育法」で行われているように、Call 教室の PC 画面を電子黒板のように使用する機能を使い電子黒板の活用方法を学ぶといった工夫は可能である。また、経済的な理由から全科目にデジタル教科書を一度に導入するのは難しいため、教職課程を学ぶ全学生が履修する「情報通信技術の活用」等の科目で、デジタル教科書の扱い方に習熟できるようにするなどの方策が考えられる。他には、ロイロノートなど実際に学校現場

で活用されているアプリを確認し、その実践的利用を推進するが必要である声も聞かれた。これもまた、教職課程として組織的に取り組むべき課題と言えるだろう。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 1－2－1：川村学園女子大学「令和 4 年度 自己点検・評価報告書」

p. 56

(URL: <https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2023/10/2022jikotenken.pdf>)

- ・資料 1－2－2：「川村学園女子大学ホームページ 教職センター」

(URL: https://www.kgwu.ac.jp/campuslife/teacher_center/)

- ・資料 1－2－3：「令和 4 年度 授業評価アンケートの分析」

(URL: https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2023/06/2022_-jyugyouhyouka.pdf)

および『令和 5 年度教職課程自己点検評価報告書データ集』データ 3)

- ・資料 1－2－4：「川村学園女子大学ホームページ：。ティーチング・ポートフォリオ」

(URL: <https://www.kgwu.ac.jp/guide/disclosure/ircenter/ティーチングポートフォリオ/>)

- ・資料 1－2－5：FD「令和 5 年度教職課程自己点検評価について」資料（2023 年 11 月 22 日）（『令和 5 年度教職課程自己点検評価報告書データ集』データ 4）

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援**基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成****〔現状説明〕**

本学の教職課程においては、教職を担うべき適切な学生を確保・育成するために、教職センターが中心となって様々な取り組みを行っている。定期的に行われる「教職課程ガイダンス」によって教職への理解と自覚を深め、教育実習の履修基準を明確に示し（資料 2-1-1）、教職課程委員会において教職課程を受講している学生一人ひとりについてその基準に合致しているかどうかを確認し、組織的に学生を支援し育成する体制がとられている。

〔長所・特色〕

教職を担うべき学生を適切な形で育成するために、本学で行われている長所・特色として、細やかな指導を挙げることができる。そもそも本学は少人数教育によるきめ細やかな指導を標榜しており、大きな特徴である。教職課程においてもその特徴は守られている。たとえば、教員が各学生の資質を把握し、それに応じて教員が高い頻度で行われる面接指導などの教職指導を行っている。これは、学生の側から見ると教員との距離が近く、丁寧に指導してもらえているという実感に繋がっている。さらに、そうしたきめ細やかな指導は、学生同士の協働性を育むことにも繋がっていることが、学生の声から明らかとなっている（資料 2-1-2）。

〔取り組み上の課題〕

教職を担うべき学生の育成を組織として考えた場合、課題として挙げられるのは、教員の連携であろう。「教科及び教科の指導法に関する科目」については当該学科の教員が担当し、「教育の基礎的理解に関する科目」等については、児童教育学科や心理学科の教員が担当するという体制がとられている。学生の育成を丁寧に行うことを考えた場合、同僚性の構築をより一層進める必要があるだろう。また、学生確保も課題である。各学科の協力も得て、教員の魅力や副免許のとりやすさをアピールするパンフレットの配布を予定している。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 資料 2-1-1：川村学園女子大学『履修案内 2023 年度』pp. 159-160
- ・ 資料 2-1-2：川村学園女子大学「教員採用試験合格記」（児童教育学科・中高教職課程）より「振り返り・後輩へのアドバイス」抜粋（『令和 5 年度教職課程自己点検評価報告書データ集』データ 5）

基準項目 2－2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

本学の教職課程では教育委員会や教職に就いている卒業生と連携した機会を定期的に設け、教職に就くため、就いた際の有益な情報を提供することに努め、組織的に教職を目指す学生のキャリア支援に取り組んでいる。

〔長所・特色〕

教育委員会や地域の多様な人材と連携した機会としては、千葉県の求める教員像、教育施策や教員研修のあり方、教員採用試験の状況に関して学ぶことのできる機会を複数、継続的に提供している（資料 2－2－1、2、3）。

また、教職センター主催で、夏期と春期に教員採用試験対策講座を（資料 2－2－4、5）、教員採用試験に向けた指導として教員採用試験二次対策講座を開催した（資料 2－2－6）。特に令和 5 年度は、教員採用選考試験一次試験の 3 年次受験への対策として、夏期春期の教員採用対策講座への 2 年生の参加を積極的に促した。こうした取り組みによって、本学の令和 5（2023）年度の教員採用試験の合格率は、中高教員採用試験一次合格率 57%、二次合格率 63%、小学校教員採用試験一次合格率 88%、二次合格率 95%であった。また、3 年次受験の合格率は、90%であった。（資料 2－2－7、8）。中高教職課程・児童教育学科では「教員採用試験合格記」を作成し、教職課程を履修している下級生全員に配布している（資料 2－2－9）。その他、教職に就いている卒業生との交流の機会としては、児童教育学科の卒業生が集う機会である G オフィスを定期的に開催している。キャリア支援という意味では、G オフィスは、意見交換の場のみならず、テーマに沿った学びの機会も提供している（資料 2－2－10）。

各学科における、教職へのキャリア支援の取り組みの具体例では、すべての学科において相談や面談を適宜実施し、学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握するとともに、ニーズに合わせた履修指導を行っている。さらに、学生同士の連携と情報の共有を図り、各教科の指導法において、学習指導案作成と模擬授業についての充実した支援が行われており、教科の学びにおいても、教育現場を念頭においた指導を行っている。

〔取り組み上の課題〕

本学の教職課程においては、外部講師ガイダンスや教員採用試験対策講座などの教職センターによるキャリア支援のみならず、各学科の教職課程においても、さまざまな形でキャリア支援を行っている実態が明らかとなった。引き続き学生一人ひとりがよりよく生きることであり、学生一人ひとりの人生を見据えてのキャリア支援を行っていく。

外部との交流については、頻度についてはコロナ以前とほぼ同じ水準に回復していると
言える。しかし、質については変化した面もある。たとえば、G オフィスでは、コロナ禍
以前は、年齢的に上の卒業生が多かったが、現在は、卒業してすぐの卒業生が多く集まる
ようになっている。若い教員へのアドバイスを豊かにしていくことを考えると、コロナ禍
以前のように、年齢的に上の卒業生の参加を回復していくことが課題である。また、G オ
フィスのような取り組みを、全学的な取り組みとして行っていくことも必要であろう。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 2-2-1：千葉県教育庁主催「千葉県・千葉市公立学校教員採用候補者選考説明
会」（『令和 5 年度教職課程自己点検評価報告書データ集』 6）
- ・資料 2-2-2：千葉県教育庁主催「先生っていいもんだ」（『令和5年度教職課程自己
点検評価報告書データ集』 データ 7）
- ・資料 2-2-3：千葉県教育庁東葛飾事務所主催「東葛地区の先生になろう」（『令和 5
年度教職課程自己点検評価報告書データ集』 データ 8）
- ・資料 2-2-4：令和 4 年度「夏期教員採用試験講座」時間割（『令和 5 年度教職課程
自己点検評価報告書データ集』 データ 9）
- ・資料 2-2-5：令和 4 年度「春期教員採用試験講座」時間割（『令和 5 年度教職課程
自己点検評価報告書データ集』 データ 10）
- ・資料 2-2-6：「教員採用試験二次対策講座」実施要領（『令和 5 年度教職課程自己点
検評価報告書データ集』 データ 11）
- ・資料 2-2-7：川村学園女子大学 HP「小学校教員を目指すなら川女へ！ ＜教員採用
試験二次の結果＞」
（URL: <https://www.kgwu.ac.jp/2023/10/29/> 【結果発表】教員採用二次試験－小学校教
員を目/）
- ・資料 2-2-8：「過去 3 年間教員採用選考の結果」（大学 HP 掲載予定）
（『令和 5 年度教職課程自己点検評価報告書データ集』 データ 12）
- ・資料 2-2-9：川村学園女子大学児童教育学科「教員採用試験合格記」（『令和 5 年度
教職課程自己点検評価報告書データ集』 データ 13）
- ・資料 2-2-10：「川村学園女子大学 G オフィス告知」（2024 年 2 月 3 日開催）（『令
和 5 年度教職課程自己点検評価報告書データ集』 データ 14）

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム**基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施****〔現状説明〕**

本学の教職課程のカリキュラムの編成や実施における取組を述べる。基準項目 1-1 や 2-1 で述べた通り、学生が目的をもって教職課程での学びを進められるように、「教職課程履修カルテ」「保育・教職実践演習カルテ」「栄養教諭履修カルテ」を用いた教職指導を行っている。また、基準項目 2-1 で述べた通り、教員としての資質・能力を担保するために、教育実習の履修条件を定めている。

また、基準項目 1-2 で述べたように、ICT 機器の活用による情報活用能力の育成やアクティブ・ラーニングなどによる課題発見能力・課題解決能力を育成することも、これからの教師を育成することに鑑みカリキュラムに工夫が求められるところである。

〔長所・特色〕

ICT 活用のスキル育成のために、全教員、学生に付与されている Microsoft 365、全学生に配布された iPad を積極的に活用していることは基準項目 2-1 で既に述べた。

アクティブ・ラーニングについては、すべての教科において模擬授業を繰り返し行うが、模擬授業内でアクティブ・ラーニングやグループワークの実践が行われる。それに加え、毎回の模擬授業終了後に全員で批評を交わし、授業内容改善につなげている。実際の授業実践でも生徒とのやり取りや資料の読み取りについてなど、学生による相互批評の形で議論し、アクティブ・ラーニングへの意識を高めるようにしている。

特色ある取り組みについて示す。教育の基礎的理解に関する科目において注目されるのが、「教職論」における「差別体験授業」であろう。これは、学生が疑似的な性差別を体験し、子どもの人権を尊重する方法について学んでいる。「学校体験活動」や「介護等体験（事前・事後指導）」は、本学においては「大学が独自に設定する科目」として単位化されている。ともに「教育の基礎的理解に関する科目」を担当する教員が担当し、現場での学びがより深まるように「理論と実践の往還」を重視した工夫がなされているのも、本学の教職課程のカリキュラムの大きな特色と言えるだろう。「学校体験活動」においては、年 6 回、我孫子市湖北地区公民館の「寺子屋コホミン」の事業に共催して、市内の小学生に 1 対 1 の学習支援を行っている（資料 3-1-1）。その振り返りにおいて、学生が目標の反省を述べ、館長・副館長が、個別指導の評価（良かった点と次回の努力点）を行う。他の学生の小学生への関わり方を聞く中で、今後自分の支援に役立てようと考え、自分の視点とは違う切り込み方を学び、体験を通して、深い学びが形成されている。また「介護等体験（事前・事後指導）」ではアポイントの取り方、手紙の書き方といった基本的なスキルの指導を丁寧に行ったり、我孫子市湖北地区公民館の「学び舎コホミン」での

ボランティアを踏まえた介護等体験が可能になる、介護等体験の経験を共有することができると、単位化したことによって体験活動での学びを深める機会を多く提供することが可能となっている。カリキュラムについていえば、本学ではこれらの科目は2年次で履修することになっており、3年次での教育実習を見据えて指導が行われている。

〔取り組み上の課題〕

以上「教職課程カリキュラムの編成・実施」の諸課題のうち、ICT機器の活用による情報活用能力の育成やアクティブ・ラーニングなどによる課題発見能力・課題解決能力を育成といった現代的な課題に本学の教職課程がどのように取り組んでいるかを中心に確認してきた。ここで明らかになったことは、こうした課題に対して各学科において、特色ある学びが展開されていることである。他方で、現状として、そうした特色ある取り組みが学科を越えて共有されているとはいいがたい。教職課程の質を高めていくことを考えた場合、よい事例は積極的に共有し、各教員が授業改善につなげていく必要があるだろう。そのためにも、学科を越えて好事例を共有するための取り組みが求められている。また、ICTに関連して、ChatGPTなどの生成AIはこれからの教育現場においても、その影響を無視できないものになると思われるが、どのように生成AIと向き合うかという課題は個々の科目ではなく組織的に取り組まれるべきであろう。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料3-1-1：川村学園女子大学 HP「体験は全ての礎（学校体験活動から）」

(URL：<https://www.kgwu.ac.jp/2023/05/29/体験は全ての礎（学校体験活動から）>)

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

本学では、平成19(2007)年に我孫子市及び我孫子市教育委員会と協定を締結し、人材の育成と住みよいまちづくりの発展を目指し、市のまちづくりの施策の推進と大学の目指す社会との連携や地域貢献活動を目的に、その達成のため、お互いに協力し推進をはかり、市立小中学校における学習補助としての学生ボランティアの活用などを実施している（資料3-2-1）。各学科では、これまで築いてきた地域、教育委員会との関係の中で、教育の現場に出向き学ぶことができる機会を充実させている。

〔長所・特色〕

上記のような機会を生かし、教科の実践的指導力を育成する工夫を挙げる。

文学部国際英語学科では、「英語科教育法Ⅰ」において、地元の公立中学校へ授業見学に行き、現職の教員による授業を参観している。また、「21CoD0MoS」（学芸大学作成）を視聴し、中学校英語科の授業展開を学習している。史学科では、「教職インターンシッ

プ」や教員養成事業「ちば！教職たまごプロジェクト」に参加する学生に対して学科として支援と指導を行っている。

教育学部幼児教育学科、生活創造学部生活文化学科では、さまざまな講演会、体験活動、ワークショップ、ボランティア活動を通じて指導計画の立案や取得する教諭免許状の特性に応じた実践的指導力を育成につなげている。

教育学部児童教育学科における「学校体験活動」では、我孫子市内の学校参観、元養護教諭を招き、「アレルギー対応（含む：エピペンを打つ練習）・救急対応・健康診断・予防接種」・「いのち ところ からだの授業展開」等の講話を実施した。「特別支援教育」では、地域の公民館で行われている、障害を持つ人の障害学習講座や、我孫子特別支援学校のボランティアに積極的に参加し、障害をもつ人と実際にふれあう機会を多く設けて、講義と実際の障害者の様子を往還的に学べるように工夫している。また、近隣の小学生3年生～6年生を対象とした「夏休み特別教室」を開催し、学内オリエンテーリングにおいては学生が主体となって楽しみながら学べるクイズラリーを行った。また、近隣小学校の「町はっけん」への協力、我孫子市教育委員会主催・小学校高学年を対象とした宿泊を伴う体験活動「手賀の丘フレンドシップツアー」（2回）でのボランティア活動など、地域の子どもの実態を肌で感じつつ、大学での学びを実践的に応用できる機会を提供している（資料3-2-2、3、4）。

学校外での学びとして教育実習に次いで大きな規模で行われているのが、3年次で履修する「教職インターンシップ」である。これは前述の通り、千葉県が行っている「ちば！教職たまごプロジェクト」や茨城県が行っている「教師塾」等に参加することを主眼とした科目である。

〔取り組み上の課題〕

本学の教職課程では、学生の実践的指導力を育成するために地域や学校外との連携が積極的に行われていることが明らかとなった。教育実習や各種ボランティアのみならず、各学科においても地域や学校外との連携を通して学びの機会を充実させている。この良好な関係は、各教員がもつパイプによって維持されている本学の教職課程の財産といってもいいであろう。したがって、これをいかに維持し、安定したものにしていくかが今後の課題となってくるだろう。また、地域や学校外との連携という点でいえば、どうしても学科において取り組みに差が出てきてしまう。たとえば「教職インターンシップ」は、児童教育学科と中高教職課程の両方で開講されているが、児童教育学科における受講率は6割（令和5（2023）年度3年生のうち）に達するのに対し、中高教職課程の受講者はわずかである。

実践的指導力の育成についていえば、こうした実践の場の学びにおける理論の重要性を指摘する声が教員から聞かれた。実践的指導力を高めるうえで、各種の体験的な学びが重要であることは言うまでもない。とはいえ、そうした体験を十全に学びに活かすためには、その意味を理解し解釈するための理論が重要である。理論が実践を下支えし、深みを与えてくれるのである。学生自身の理論と実践の往還を可能とするためにも、教員同士が連携して学生の学びを援助することが求められていると言えよう。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-2-1：川村学園女子大学「令和4年度 自己点検・評価報告書」

p.82

(URL: <https://www.kgwu.ac.jp/wp-content/uploads/2023/10/2022jikotenken.pdf>)

- ・資料3-2-2：川村学園女子大学 HP「夏休み特別教室（小学3～6年生対象）」開催のお知らせ (URL: <https://www.kgwu.ac.jp/2023/07/14/>「夏休み特別教室（小学3～6年生対象）」開催/)

- ・資料3-2-3：「我孫子市立第二小学校2年生生活科『町はっけん』見学科目」川村学園女子大学児童教育学科作成資料
(『令和5年度教職課程自己点検評価報告書データ集』データ15)

- ・資料3-2-4：我孫子市 HP「令和5年度 手賀の丘フレンドシップツアー（第2回）」

(URL: https://www.city.abiko.chiba.jp/event/event_moyooshi/seishonen/H30friendshiptour.html)

Ⅲ．総合評価

全体として各学科できめ細やかな指導がなされている。また、成績のふるわない学生に再聴講を認めるなど、資格を与えるのではなく、教員となることを見据え力を身に付けさせることを主眼とした教育がなされている。実務家教員も多く、授業の多くが教育現場を強く意識したものとなっている。また、授業外でも教員採用試験対策を充実させている。

アクティブ・ラーニングや情報活用能力、ICT 活用能力といった、現在教員に求められている資質・能力の育成に対応する学びを提供する工夫がなされている。さらに、地域をはじめとした学校の外部との連携を深めている。これにより、理論と実践の往還が成立している。今後は、SD や FD などの研修、あるいはこの自己点検などを通して、学科の壁を越えて有益な情報やスキルを共有することが求められていると言えるだろう。

Ⅳ 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

本学において、年度当初に教職課程委員会によって教職課程自己点検評価の実施が決定され、「教職課程自己点検評価報告書」（以下「報告書」と記す）の作成に向けて教職センターと修学支援室のメンバーで構成されたワーキンググループを立ち上げた。ワーキンググループの打ち合わせ（令和 5（2023）年 7 月 26 日）において、「報告書」作成のプロセスとスケジュールを確認した。ここで、本学の規模ならびに教職課程の運営状況に鑑みて、昨年に引き続きフォーム 2 を用いること、今年度は ICT の活用を中心に各学科からの情報を集約して「報告書」を作成する方針が確認された。「報告書」作成は適切に作成することが求められるため、全国私立大学教職課程協会や関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会のシンポジウム等で提示される情報をフォローし、こうした情報は必ず教職センターで共有し、各学科の担当者が情報にアクセスできるように努めた。8 月～9 月にかけて、各学科の教職課程における自己点検を実施した。そして、10 月以降にそれらをワーキンググループにおいて取りまとめ、「報告書」としてまとめる作業を行った。並行して、「報告書」に必要な各種データの収集も行った。また、全学的に実施された FD（令和 5（2023）年 11 月 22 日）において、「令和 5 年度教職課程自己点検評価について」というタイトルで、ワーキンググループのメンバーによる発表を行った。このような全学的な FD の場での発表は、教職課程の教育に直接的に関わることの少ない教員に対して、教職課程の内実を知り全学的に教職課程の教育を推進していく必要性を認識してもらう上で重要な機会となった。さらに自己点検の取りまとめが進展した段階で、教職課程委員会（令

和 6（2024）年 2 月 7 日）にて自己点検の内容を共有した。2 月～3 月には「報告書」の最終的な修正等を行った。作成された「報告書」は、教職センター会議（持ち回り）及び教職課程委員会（持ち回り）で最終的な確認を行い、自己点検評価委員会並びに部局長会において、正式な「報告書」として承認された。

Ⅴ 現況基礎データ一覧

令和 5 （2023）年 5 月 1 日現在

法人名 学校法人 川村学園					
大学・学部名 川村学園女子大学 文学部					
学科・コース名（必要な場合） 国際英語学科					
1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業生数					35名
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					32名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					5名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用＋臨時的任用の合計数)					2名
④のうち、正規採用者数					1名
④のうち、臨時的任用者数					1名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他（ ）
教員数	3名	1名	1名	1名	
相談員・支援員など専門職員数 1名					

法人名					
学校法人 川村学園					
大学・学部名					
川村学園女子大学 文学部					
学科・コース名（必要な場合）					
史学科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数					39名
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					32名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					3名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用＋臨時的任用の合計数)					3名
④のうち、正規採用者数					1名
④のうち、臨時的任用者数					2名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	4名	1名	3名		
相談員・支援員など専門職員数 1名					

法人名					
学校法人 川村学園					
大学・学部名					
川村学園女子大学					
学科・コース名（必要な場合）					
心理学科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数					38名
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					23名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					0名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用＋臨時的任用の合計数)					0名
④のうち、正規採用者数					0名
④のうち、臨時的任用者数					0名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	6名	1名	1名	1名	
相談員・支援員など専門職員数 1名					

法人名					
学校法人 川村学園					
大学・学部名					
川村学園女子大学					
学科・コース名（必要な場合）					
日本文化学科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数					34名
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					26名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					4名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用＋臨時的任用の合計数)					4名
④のうち、正規採用者数					1名
④のうち、臨時的任用者数					3名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	4名	1名	1名		
相談員・支援員など専門職員数 1名					

法人名					
学校法人 川村学園					
大学・学部名					
川村学園女子大学 教育学部					
学科・コース名（必要な場合）					
幼児教育学科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数					35名
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					34名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					34名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用＋臨時的任用の合計数)					11名
④のうち、正規採用者数					11名
④のうち、臨時的任用者数					0名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	4名	3名	3名		
相談員・支援員など専門職員数 2名					

法人名					
学校法人 川村学園					
大学・学部名					
川村学園女子大学 教育学部					
学科・コース名（必要な場合）					
児童教育学科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数					23名
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					22名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					23名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用＋臨時的任用の合計数)					17名
④のうち、正規採用者数					11名
④のうち、臨時的任用者数					6名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	6名	2名	1名		
相談員・支援員など専門職員数 4名					

法人名					
学校法人 川村学園					
大学・学部名					
川村学園女子大学 生活創造学部					
学科・コース名（必要な場合）					
生活文化学科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数					30名
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					24名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					3名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用＋臨時的任用の合計数)					2名
④のうち、正規採用者数					1名
④のうち、臨時的任用者数					1名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	7名	3名	2名		
相談員・支援員など専門職員数 2名					

川村学園女子大学『令和 5 年度教職課程自己点検評価報告書』データ集

目次

【資料 1－1－1 データ 1】	中高教職課程「教職課程履修カルテ」（中高英語）・・・・・・・・・・	1
【資料 1－1－2 データ 2】	中高教職課程「教職論」のシラバス・・・・・・・・・・	1 2
【資料 1－2－3 データ 3】	「令和 4 年度 教職科目の授業評価アンケートの分析」・・・・・・・・・・	1 3
【資料 1－2－5 データ 4】	FD「令和 5 年度教職課程自己点検評価について」資料・・・・・・・・・・	1 7
【資料 2－1－2 データ 5】	川村学園女子大学「教員採用試験合格記」（児童教育学科・中高教職課程）より 「振り返り・後輩へのアドバイス」抜粋・・・・・・・・・・	2 1
【資料 2－2－1 データ 6】	千葉県教育庁主催「千葉県・千葉市公立学校教員採用候補者選考説明会」・	2 4
【資料 2－2－2 データ 7】	千葉県教育庁主催「先生っていいもんだ」開催通知・・・・・・・・・・	2 5
【資料 2－2－3 データ 8】	千葉県教育庁東葛飾事務所主催「東葛地区の先生になろう」開催通知・・	2 6
【資料 2－2－4 データ 9】	令和 5 年度「夏期教員採用試験講座」時間割・・・・・・・・・・	2 7
【資料 2－2－5 データ 10】	令和 5 年度「春期教員採用試験講座」時間割・・・・・・・・・・	2 8
【資料 2－2－6 データ 11】	「教員採用試験二次対策講座」実施要領・・・・・・・・・・	3 3
【資料 2－2－8 データ 12】	「過去 3 年間教員採用選考の結果」・・・・・・・・・・	3 5
【資料 2－2－9 データ 13】	川村学園女子大学児童教育学科「令和 5 年度教員採用試験合格記」より 表紙、目次・・・・・・・・・・	3 6
【資料 2－2－1 0 データ 14】	「川村学園女子大学 G オフィス告知」（2024 年 2 月 3 日開催）・・・・・・・・	3 8
【資料 3－2－3 データ 15】	「我孫子市立第二小学校 2 年生生活科『町はっけん』見学科目」（2022 年 11 月 11 日実施）川村学園女子大学児童教育学科作成資料・・・・・・・・・・	3 9

教職課程履修カルテ

（2021年度 入学者用）

学部		学科	学 校 種	免 許 種（教 科 名）		
学生番号(		)				
フリガナ 氏 名			()一種			
			()一種			
			()一種			

教職課程は、卒業後、教師になることを希望している学生のために設けられている課程です。

教職課程の履修に当たっては、教員志望の強い意志に加え、『履修案内』に記載されている条件をすべて満たすことが必要となります。

この「教職課程履修カルテ」は、あなたが教師になるために必要な単位を修得しているか、どのような自己課題があるかを記録し見渡すためにつくられています。

「教職課程履修カルテ」の書き方や利用の仕方については、教職ガイダンスで説明を行いますのでよく聞きましょう。そして、「教職課程履修カルテ」への記入を通して、振り返りと研鑽を重ねて学習の成果を上げるように努力してください。

教員免許状取得 必須要件

教育職員免許法施行規則第66条の6で定められている教員免許取得の条件となる科目。
必ず1・2年次に修得すること。

免許法上の規定		開設授業科目 (単位数)		修得 年次	成績
日本国憲法	2単位	「日本国憲法」	2		
体育	2単位	「健康スポーツ論」	2	2以上	
		「スポーツ(1)～(8)」	2		
外国語コミュニケーション	2単位	「英語 I (1)・(2)」	2以上		
		「英会話(1)・(2)」			
		「EIA I (1)・(2)」※			
		「EIA II (1)・(2)」※			
情報機器の操作	2単位	「情報処理(1)・(2)」	2以上		

※「EIA I (1)・(2)」 「EIA II (1)・(2)」は国際英語学科のみ。

<教職課程単位数取得状況確認表>

免許法施行規則に定める 科目区分等	教科	校種	最低履修 単位数	取得単位数						計
				1年次	2年次	(累計)	3年次	(累計)	4年次	
教育の基礎的理解に関する科目等	全教科共通	中学	33			()		()		
		高校	29			()		()		
教科及び教科の指導法に関する科目	英語	中・高 共通	32			()		()		
	社会	中学	38			()		()		
	地理歴史	高校	24			()		()		
	公民	高校	24			()		()		
	国語	中学	28			()		()		
		高校	24			()		()		
	家庭	中学	29			()		()		
		高校	31			()		()		
「大学が独自に設定する科目」必修(介護等体験)	全教科共通	中学	1			()		()		
「大学が独自に設定する科目」の選択科目、または最低修得単位数を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目等」	全教科共通	中学	3			()		()		
		高校	12			()		()		
総計	全教科共通	中・高 共通	59			()		()		

<成績状況確認表>

確認項目	1年次	2年次	3年次	4年次
通算GPA(※1)				
「教科及び教科の指導法に関する科目」の成績がB以上の割合 (B以上の単位数/累計単位数)(※2)			(前期)	

※1・・・教育実習を行う前年度までの通算GPAが2.0以上でなければならない

※2・・・原則として、3年次前期終了時点で「教科及び教科の指導法に関する科目」の4/5が「B」以上でなければならない

教育の基礎的理解に関する科目等(全教科共通)

免許法施行規則に定める科目区分等		開設授業科目	単位数		修得 年次	成績 評価	備考	自己評価
科目区分	単位数		必修	選択				
教育の基礎的理解に関する科目	10	教育原理	2					1・2・3
		学校と教育の歴史		2				1・2・3
		教職論	2					1・2・3
		学校経営論(学校安全を含む)	2					1・2・3
		教育心理学	2					1・2・3
		特別支援教育	2					1・2・3
		教育課程論	2					1・2・3
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	中10 高8	道徳の理論と指導法	2				中免のみ	1・2・3
		総合的な学習の時間の指導法	2					1・2・3
		特別活動の指導法	2					1・2・3
		教育方法学・技術論	2					1・2・3
		教育とメディア (ICT機器活用演習)		2				1・2・3
		生徒指導の理論と方法 (中・高)	2					1・2・3
		教育相談	2					1・2・3
		進路指導・キャリア教育	2					1・2・3
教育実践に関する科目	中5 高3	教育実習演習(事前・事後指導)	1					1・2・3
		教育実習Ⅰ	2					1・2・3
		教育実習Ⅱ		2			中免必修	1・2・3
	2	教職実践演習	2					1・2・3
合計	中27 高23	中学校 33単位以上 高等学校 29単位以上						

【自己評価欄】 1:劣っている、2:ふつう、3:優れている

中学校一種免許「英語」・高等学校一種免許「英語」

＜大学が独自に設定する科目＞

免許法施行 規則に定める 科目区分	開設授業科目名	単位		修得 年次	成績 評価	自己評価
		必修	選択			
大学が独自に設定する科目	介護等体験(事前・事後指導)	(中)1				1・2・3
			(高)1			1・2・3
	道徳の理論と指導法		(高)2			1・2・3
	教職インターンシップ(事前・事後指導)		4			1・2・3
	学校体験活動		4			1・2・3
	イギリス文化史(1)		2			1・2・3
	アメリカ文化史(1)		2			1・2・3
	言語学入門(1)		2			1・2・3
	国際関係入門(1)		2			1・2・3
	国際関係入門(2)		2			1・2・3
	ニュージーランド研修		2			1・2・3

【中学校免許の場合】「大学が独自に設定する科目」の選択科目または最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」または「教育の基礎的理解に関する科目等」について、併せて3単位以上を修得すること

【高等学校免許の場合】「大学が独自に設定する科目」の選択科目または最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」または「教育の基礎的理解に関する科目等」について、併せて12単位以上を修得すること

＜教科及び教科の指導法に関する科目＞(中高共通)

免許法施行 規則に定める 科目区分	開設授業科目名	単位		修得 年次	成績 評価	自己評価
		必修	選択			
英語学	英語音声学(2)	2				1・2・3
	英文法Ⅱ	2				1・2・3
	英語学特講	2				1・2・3
英語文学	英語文学演習	2				1・2・3
英語 コミュニケーション	リーディングⅢ	2				1・2・3
	ライティングⅢ	2				1・2・3
	リスニングⅢ	2				1・2・3
	リサーチ&プレゼンテーション	2				1・2・3
	スピーキング	2				1・2・3
異文化理解	国際文化特講Ⅰ(イギリスと文化)	2				1・2・3
	国際文化特講Ⅱ(アメリカと文化)	2				1・2・3
	異文化コミュニケーション実践	2				1・2・3
各教科の指導法 (情報機器及び 教材の活用を含む。)	英語科教育法Ⅰ	2				1・2・3
	英語科教育法Ⅱ	2				1・2・3
	英語科教育法Ⅲ	2				1・2・3
	英語科教育法Ⅳ	2				1・2・3

免許法施行規則に定める科目区分のなかから、合計32単位以上を修得すること

【自己評価欄】 1:劣っている、2:ふつう、3:優れている

＜ 教 職 理 解 （ 1 ） ＞

自己評価欄： 1＝劣る 2＝ふつう 3＝優れている

項目	指標	自己評価		
		2 年 次	3 年 次	4 年 次
(1) 教職に対する 自覚と熱意	① 教育の仕事に対する理解	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	② 教職の使命の自覚	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	③ 教職を目指す姿勢	1 2 3	1 2 3	1 2 3
(2) 教養・人格	① 一般教養	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	② 人間関係	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	③ 責任感・協力的態度	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	④ 言語・服装・礼儀	1 2 3	1 2 3	1 2 3
(3) 生徒理解	① 生徒理解への努力	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	② 生徒に接する態度	1 2 3	1 2 3	1 2 3
(4) 教科の指導	① 専門教科の教養	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	② 教材研究の熱意	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	③ 指導計画の作成	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	④ 表現力・指導技術・授業の展開	1 2 3	1 2 3	1 2 3
(5) 教科外の指導	① 教科外活動への関心・参加	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	② 学級・HR運営への協力	1 2 3	1 2 3	1 2 3
上記のデータを参考に、教職を目指す上での今後の課題 (2 年次)				
(3 年次)				
(4 年次)				
課題を克服するための具体的な方法 (2 年次)				
(3 年次)				
(4 年次)				

＜ 教 職 理 解 （ 2 ） ＞

3 年次の授業がすべて終了後に記入すること

○ 学習指導案について
○ 学校教育をとりまく課題
○ 望ましい教師像の探究
○ 学習指導要領の「総則」を見直す
○ 教育に関する時事問題に関心をもつ
○ 教育法規のポイントを見直す
○ 生徒指導・学級経営のあり方を考える
○ 学校行事を手がかりに最近の学校について考える

〔教育実習演習（事前・事後指導） 担当教員コメント欄〕

--

学生番号

氏名

＜学校ボランティア＞

自己評価欄：1＝劣る 2＝ふつう 3＝優れている

項目	指標	自己評価		
		1年次	2年次	3年次
(1) ボランティア に対する自覚 と熱意	① ボランティアの仕事に対する理解	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	② ボランティアの使命の自覚	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	③ ボランティアに取り組む姿勢	1 2 3	1 2 3	1 2 3
(2) 集団活動	① 一般常識	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	② 人間関係	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	③ 責任感・協力的態度	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	④ 言語・服装・礼儀	1 2 3	1 2 3	1 2 3
(3) 生徒(対象者) の理解	① 生徒(対象者)理解への努力	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	② 生徒(対象者)に接する態度	1 2 3	1 2 3	1 2 3
(4) ボランティア における指導 (学習支援の場合)	① 専門教科の教養	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	② 教材研究の熱意	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	③ 指導計画の作成	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	④ 表現力・指導技術	1 2 3	1 2 3	1 2 3
(5) 教科外の指導	① 教科外活動の指導力	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	② 教科外活動への熱意	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	③ 学級HR運営への指導力	1 2 3	1 2 3	1 2 3
	④ 学級HR運営への熱意	1 2 3	1 2 3	1 2 3

ボランティアを通して学んだこと

ボランティアを通して自分の課題と考えていること

学生番号 _____ 氏名 _____

＜ボランティア＞

A

ボランティアの名称	内 容	期 間
		年 月 日～ 年 月 日 (日間)

ボランティア体験を通して学んだこと。
(年次)

このボランティア体験を、教職にどう活かしていくのか。

B

ボランティアの名称	内 容	期 間
		年 月 日～ 年 月 日 (日間)

ボランティア体験を通して学んだこと。
(年次)

このボランティア体験を、教職にどう活かしていくのか。

学生番号 _____ 氏名 _____

＜教職関連資格＞

資 格 名	資格等の内容	1 年 次 取 得	2 年 次 取 得	3 年 次 取 得
(1)	民間資格・国家資格 級など	年 月	年 月	年 月
(2)	民間資格・国家資格 級など	年 月	年 月	年 月
(3)	民間資格・国家資格 級など	年 月	年 月	年 月
(4)	民間資格・国家資格 級など	年 月	年 月	年 月
(5)	民間資格・国家資格 級など	年 月	年 月	年 月
〔資格を学校教育の現場でどのように活かしていくか〕				
〔4年次以降の取得予定資格〕				

教職課程関連カレンダー(予定)

教職課程関連のガイダンスや各種手続き、特別講座等の実施予定時期は概ね以下の通りです。

	1年次	2年次	3年次	4年次
前期	教職課程ガイダンス	教職課程ガイダンス	教職課程ガイダンス	教職課程ガイダンス
	教職課程履修登録	教職課程履修登録	教職課程履修登録	教職課程履修登録
	教職課程関連費納入	教職課程関連費納入	教職課程関連費納入	教職課程関連費納入
			たまごプロジェクト	教員採用試験特別講座
				教員採用試験申し込み
				たまごプロジェクト
				教育実習
夏期休業				教員採用試験
	夏期教員採用試験対策講座 (任意)	夏期教員採用試験対策講座 (任意)	母校への実習受入確認・内 諾書提出(母校実習希望者)	
			夏期教員採用試験対策講座 (必須)	
後期	他学科免許ガイダンス	3年次たまごプロジェクト申込	4年次たまごプロジェクト申込	免許状一括申請ガイダンス①
			教員採用試験特別講座	免許状一括申請ガイダンス②
			教育実習必要単位数チェック	免許状一括申請ガイダンス③
春期休業	介護等体験ガイダンス	教育実習ガイダンス		
	介護等体験申込			

- ・日程変更や新たな企画が発生する場合があります。掲示板や大学からのメール等で各自確認してください。
- ・ガイダンスの無断欠席や提出物の期日を守れない場合は、教職課程の履修や教育実習の受講資格を失うことがありますので十分注意してください。

【資料1－1－2 データ2】中高教職課程「教職論」のシラバス

授業コード	A901004-01	科目ナンバリング	UNI41B02
科目名	教職論		
担当教員名	内海崎 貴子		
単位数	2単位	授業形態	講義
学期	前期	配当年次	1年
学科	史・心・日・生		

養成される資質・能力	
卒業認定・学位授与の方針との関連	D P 1：幅広い理解 言語的理解と表現 人間・文化・社会・自然について、幅広く理解している。 基礎的な学習能力を身につけ、言語的な理解力とその表現能力を習得している。 D P 2：専門知識 方法の理解 分析と思考力 専門教育を通じて、専門知識を修得し、方法論に習熟している。 専門教育における高度実践的なスキル、創造的な思考力を身につけている。
知的基礎力	理解力・判断力
社会人基礎力	問題発見・価値判断力

到達目標	1.教職の意義と専門性、職務内容・服務義務を説明できる。 2.学校教育における教員の役割、必要な資質能力を理解し、進路選択との関わりから教職の在り方を説明できる。
授業の概要（目的）	我が国の学校教育の役割と教職の意義、教員の役割と資質能力、職務内容と服務上・身分上の義務、チーム学校運営について学習し、他職との比較により、自身の教職への適性を見極める。
アクティブ・ラーニングの要素	課題解決型学習／ディスカッション・ディベート／グループワーク

授業計画	
第1回	事前学修：シラバスを確認し、教科書の序章を読んでおく【2時間】 授業内容：オリエンテーション：教職に就くということ 教職科目履修の動機とめざす教師像 事後学修：ワークシートを完成させる【2時間】
第2回	事前学修：ワークシートを読み返し、授業に備える【1時間】 授業内容：学校教育(公教育)の目的と意義 学校教育制度と関連法規の理解 事後学修：ワークシートを完成する【3時間】
第3回	事前学修：教科書第1章を熟読しておく【2時間】 授業内容：教員の文化と専門性 教職の職業的特徴 事後学修：ワークシートを完成する【2時間】
第4回	事前学修：教科書第8章を読んでおく【2時間】 授業内容：教育公務員とは一教員の身分保障及び服務義務－ 事後学修：ワークシートを完成する【2時間】
第5回	事前学修：教科書第4章を読んでおく【2時間】 授業内容：教員の職務と校務分掌 事後学修：ワークシートを完成する【2時間】
第6回	事前学修：教科書第2章を読んでおく【2時間】 授業内容：近代日本における教職観の変遷 事後学修：ワークシートを完成する【2時間】
第7回	事前学修：教科書第6章を読んでおく【2時間】 授業内容：保護者・地域住民との連携と教員の役割 事後学修：ワークシートを完成する【2時間】
第8回	事前学修：配布資料を熟読しておく【2時間】 授業内容：チーム学校とは何か 専門関係機関・専門職との連携 事後学修：ワークシートを完成する【2時間】
第9回	事前学修：教科書第7章を読んでおく【2時間】 授業内容：放課後における子どもの教育活動との連携 事後学修：ワークシートを完成する【2時間】
第10回	事前学修：配布資料を熟読しておく【2時間】 授業内容：子どもの権利条約と教員の使命－人権教育－ 参加体験型事例研究 事後学修：ワークシートを完成する【2時間】
第11回	事前学修：教科書第10章を読んでおく【2時間】 授業内容：教員のワーク・ライフ・バランス 教員の権利と義務 事後学修：ワークシートを完成する【2時間】
第12回	事前学修：教科書第11章を読んでおく【2時間】 授業内容：児童・生徒理解と教員のメンタルヘルス 教職のやりがいと課題 事後学修：ワークシートを完成する【2時間】
第13回	事前学修：教科書第13章を読んでおく【2時間】 授業内容：教員に求められる役割と責務－ILO・ユネスコ「教員の地位に関する勧告」－ 事後学修：ワークシートを完成する【2時間】
第14回	事前学修：教科書第14章を読んでおく【2時間】 授業内容：教員としての発達とその支援 事後学修：ワークシートを完成する【2時間】
第15回	事前学修：教科書終章・これまでのワークシートを読んでおく【3時間】 授業内容：学習の振り返りとまとめ－学び続ける教員をめざして－ 事後学修：振り返りシートを完成する【1時間】

成績評価の方法	授業中のリアクション・ペーパー2回（20％）、学期末試験（80％）で評価
課題に対するフィードバックの方法	学期末試験の模範解答とその解説を掲示

テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・教職入門改訂版	山崎肇二・矢野博之編著	学文社	978-4-7620-2418-4	2020年
参考書	中央教育審議会答申（2015年12月21日）「これからの学校教育を担う教員の資質能力向上について～学びあい、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」			
履修上の注意等	授業内に討論、グループワークを実施するので、予習・復習を怠らないこと。			

【資料 1－2－3 データ 3】「令和 4 年度 教職科目の授業評価アンケートの分析」

令和 4(2022)年度 教職科目の授業評価アンケートの分析結果

授業評価アンケートについて、「授業の進め方」に関する 7 項目、「学生の行動・理解」に関する 6 項目を用いて、幼稚園、小学校、中学・高等学校別に、前期、後期ごとに分析を行った(別表参照)。

【主な結果】

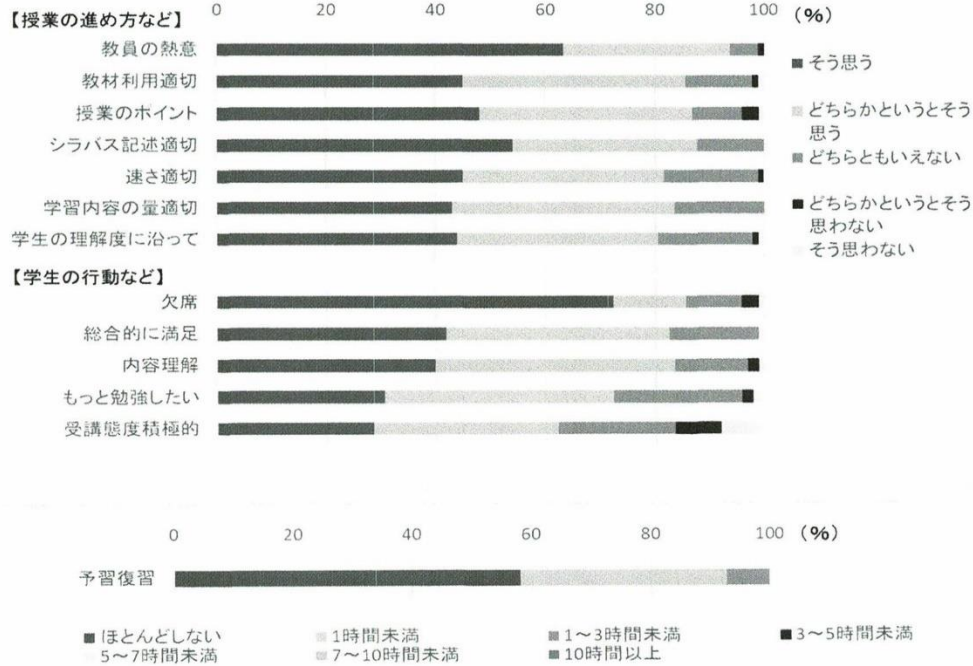
・「授業の進め方」に関する 7 項目では、幼稚園の後期で、「速さが適切」「学習内容の量が適切」「学生の理解度に沿った授業」で肯定的な回答(そう思う、どちらかというと思う)が 75%を下回っていた。また、小学校の前期と中学校・高等学校の後期で、「学習内容の量が適切」で肯定的な回答が 75%を下回っていた。その他の項目は、75%以上の学生が適切であると回答していた。

・「学生の行動・理解」に関する 6 項目では、「総合的に満足」は、幼稚園の後期で、肯定的な回答が 75%を下回っていた。また、「内容が理解できた」は、幼稚園の後期で、肯定的な回答が 75%を下回っていた。「もっと勉強したい」は、幼稚園の前期・後期で、肯定的な回答が 75%を下回っていた。「積極的な受講態度」は、幼稚園の前期・後期、中学・高等学校の前期・後期で、肯定的な回答が 75%を下回っていた。その他の項目は、75%以上の学生が適切であると回答していた。

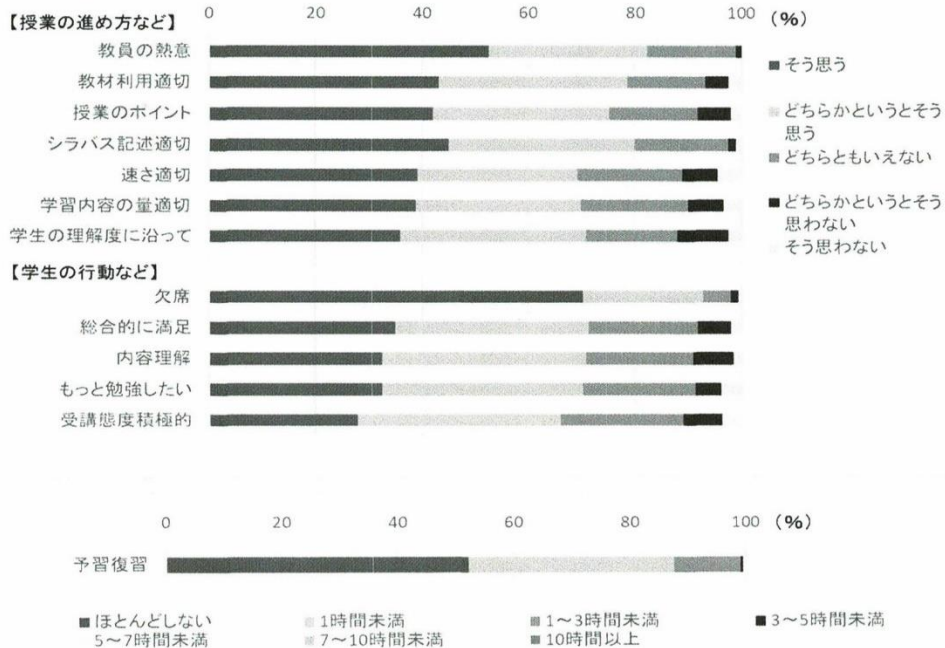
・全ての学校種で、「予習復習」は、「ほとんどしない」「1 時間未満」が多かったが、学校種間で比較すると、幼稚園より、小学校、中学・高等学校の予習復習の時間が長い傾向が見られた。

・これらの結果を 2021 年度の結果と比較すると、「授業の進め方」に関する項目では、幼稚園、小学校で、前年度より肯定的な回答が下回る項目が見られた。また、「学生の行動・理解」に関する項目では、「もっと勉強したい」「積極的な受講態度」は相対的に低い傾向が見られ、おおむね前年度と同様の結果が認められたが、「総合的に満足」「内容が理解できた」は、幼稚園でやや低下傾向が認められた。

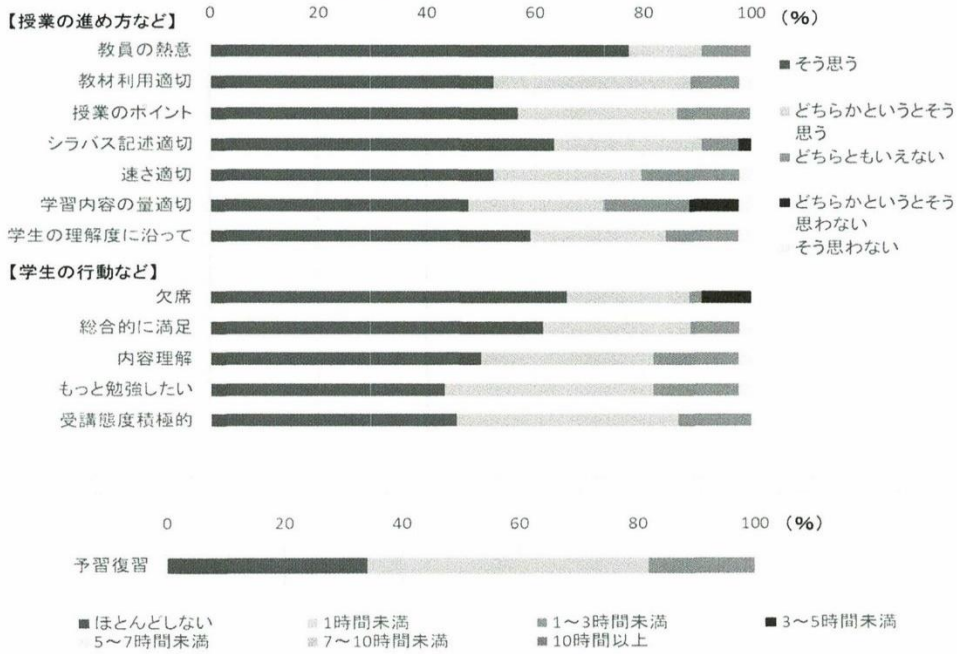
2022年度 前期 幼稚園 教育の基礎的理解に関する科目



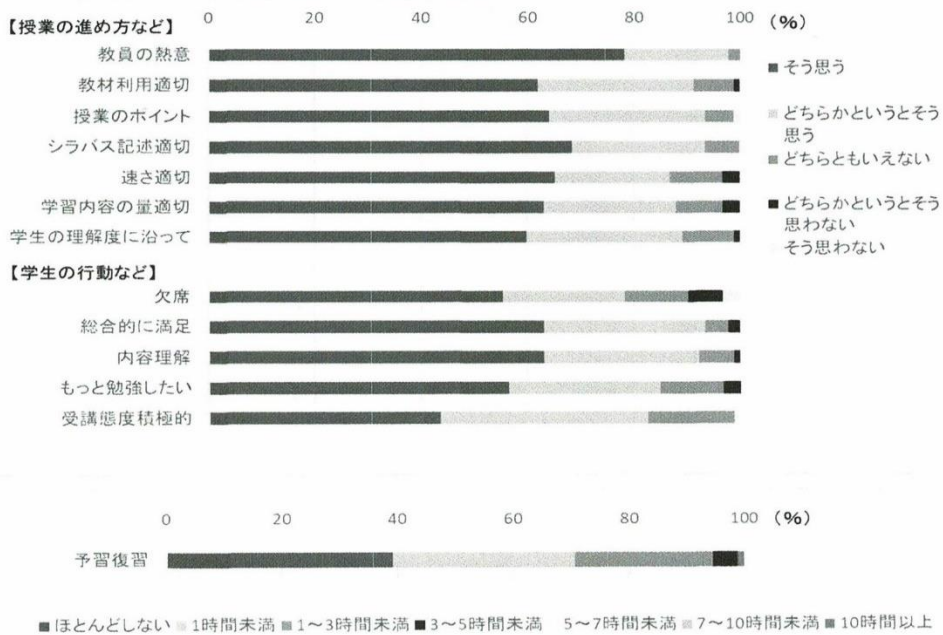
2022年度 後期 幼稚園 教育の基礎的理解に関する科目



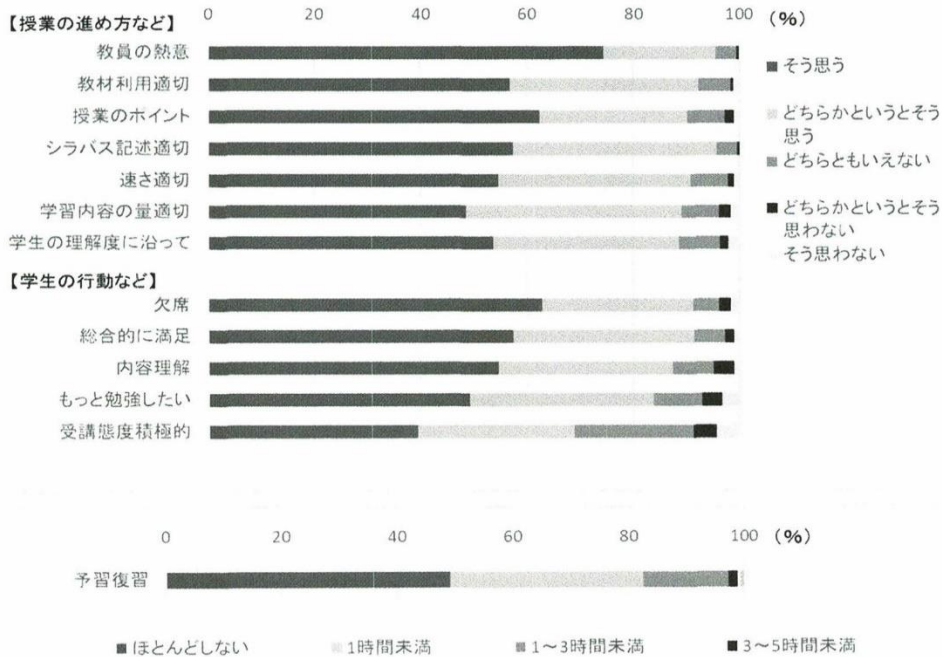
2022年度 前期 小学校 教育の基礎的理解に関する科目



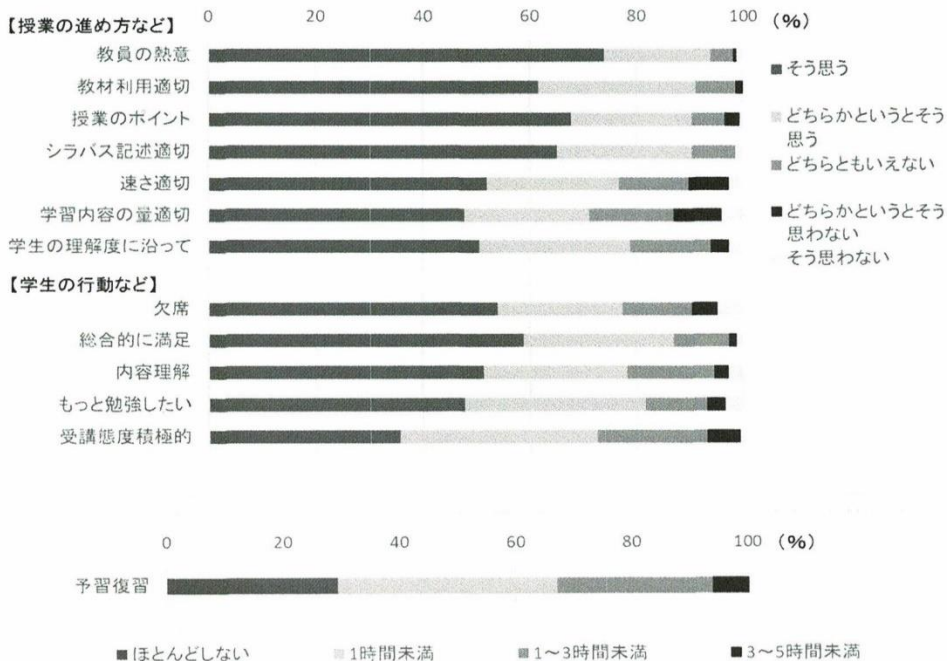
2022年度 後期 小学校 教育の基礎的理解に関する科目

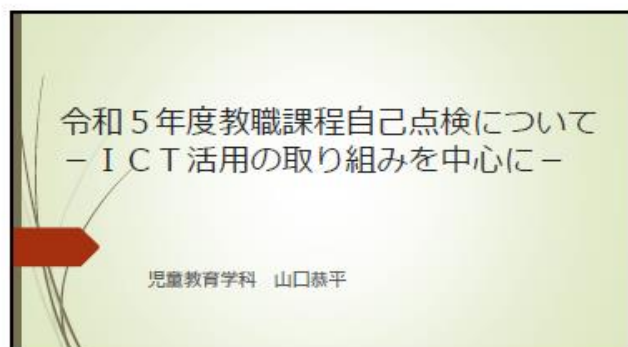


2022年度 前期 中学校・高等学校 教育の基礎的理解に関する科目

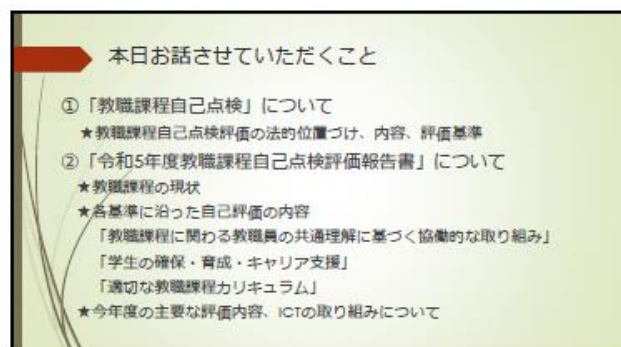


2022年度 後期 中学校・高等学校 教育の基礎的理解に関する科目

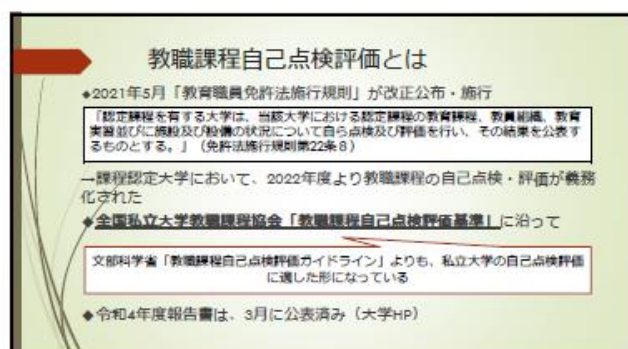




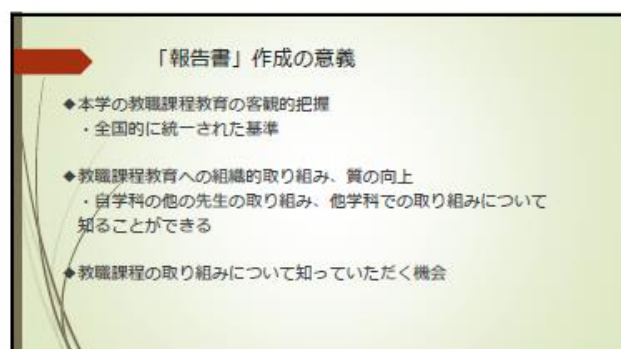
1



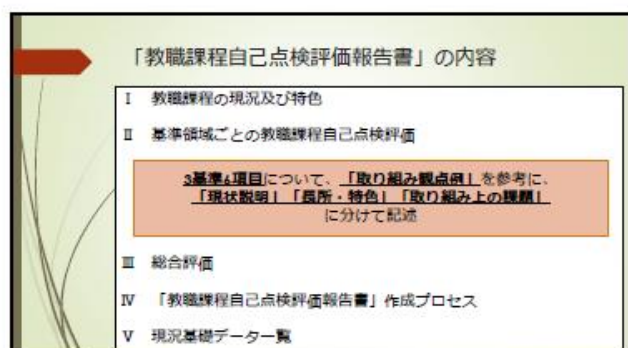
2



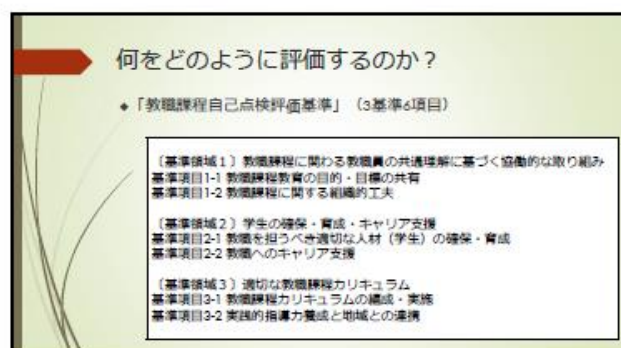
3



4



5



6

教職課程の現状

学部	学科	幼稚園一種	小学校一種	中学校一種	高等学校一種	栄養教諭二種
文学部	国語言語学科				英語	
	史学科			社会	英語歴史	
	心理学科				公民	
教育学部	日本文学科			英語	英語	
	幼児教育学科	○				
	児童教育学科		○			
生活創造学部	生活文化学科			家庭	家庭	○

- ・小規模の大学ならではのきめ細やかで丁寧な教育
- ・教員免許取得者は、毎年およそ100名程度。
- ・千葉や茨城で教職に就き、地域社会の発展に貢献
- ・他学科免許の制度

7

基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域1「教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」

1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

- ◆教職課程では、各課程ごとに教員養成の理念や求める教員像
- ◆そうした理念・教員像の共有の場、ツールとして・・・
- ・ポートフォリオ（教職課程履修カルテ）の活用
- ・教職課程ガイダンスを初めとしたガイダンス
- ・シラバス（DPとの関連、学習成果の可視化）
- ・教員像を明確化する、さまざまな授業での取り組み

共通しをもった学び

- ◆課題としては、学科における教員間の理念や教員像を共有する取り組み

8

基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域1「教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」

1-2 教職課程に関する組織的工夫

【現状】

- ◆教職課程に関わる組織（教職課程委員会、教職センター）
- ◆授業評価アンケートの活用
- ◆FDやSDの取り組み
- ◆教職課程教育を行う上での組織的な施設・設備の整理

【課題】

- ◆教職課程科目の肯定的評価は多い。

しかし、教職課程のアンケートとしては項目に一考の余地がある。

◆ICT教育環境、デジタル教科書への対応 【後述】

教員採用試験対策講座実施『教職センター年報』
教員免許状一部申請業務
地域・教育委員会との連携
など

9

基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域2「学生の確保・育成・キャリア支援」

2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

【現状】

- ◆ガイダンス 教職課程ガイダンス、その他ガイダンス

◆教育実習履修基準の明確化、周知

【特色】

- ◆少人数で細やかな指導

学生の置境、適性の把握

10

基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域2「学生の確保・育成・キャリア支援」

2-2 教職へのキャリア支援

【現状・特色】

- ◆本学では、組織的にキャリア支援を行う体制が整っている

情報の提供 外部講師によるガイダンス（「先生っていいもんだ」等）、授業など

教員採用試験対策講座 教職センター主催の夏期（教職教養）、夏期二次対策、冬期（専門）、さらに日常的に行われる非公式なものも含めて

高い合格率の獲得（令和5年度：）

【教員採用選考試験体験記】の配布

Gオフィスの実施 卒業生同士、卒業生と在校生の繋がり

各学科でも特色ある取り組み

11

基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域3「適切な教職課程カリキュラム」

3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

【現状・特色】

- ◆「教職課程履修カルテ」「保育・教職実践演習カルテ」「栄養教諭履修カルテ」

目的意識をもった学びの促進

- ◆アクティブ・ラーニング・グループワークの積極的な実践

たとえば、教科教育法における模擬授業→相互批評

- ◆「介懐等体験」「学校体験活動」「教職インターンシップ」

→ボランティアを単位化

- ◆ICT機器の活用、情報活用能力の育成を可能とする環境 ※課題【後述】

【課題】

- ◆特色ある取り組み（好事例）の共有

12

基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域3「適切な教職課程カリキュラム」

3-2 実践的指導力養成と地域との連携

【現状・特色】

- ◆ 我孫子市・我孫子市教育委員会との協定、地域や教育委員会との関係
- 学生ボランティアの機会など実践的指導力養成に資する実践的な学びの場が充実。

（例）「特別支援教育」「学校体験活動」「教職インターンシップ」
※現場の先生方からも、意欲的な学生を迎えられることに好意的な声

- ◆ 講演会、体験活動、ワークショップなどの充実

（例）「学校体験活動」での学校参観、アレルギー検定証等の学び

【課題】

- ◆ 各教員の地域・学校外とのパイプをいかに維持・安定したものにしていくか。
- ◆ 理論もまた重要。理論と実践の往還を可能とするための学びの確保。

13

基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域3「適切な教職課程カリキュラム」

3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

◆ ICT機器の活用、情報活用能力の育成を可能とする指導

- ・ PowerPointを活用したプレゼン能力の育成
- ・ Teams、Formsの活用
- ・ ICT機器の活用法、プログラミング教育を視野にいれた内容

◆ アクティブ・ラーニング

- ・ アクティブ・ラーニングが科目の特質に応じて取り入れられている
- ・ 工夫されたアクティブ・ラーニングが行われている

・ 資料、課題の配布・提出・フィードバック
・ オンラインでの模擬授業
・ クラウドの活用

14

令和5年度「報告書」の要点

◆ 各学科にICTの取り組みについて伺った

① 授業内でどのようにICT機器を活用しているか
② 先駆的・独自性があると思われる取り組み
③ 今後の改善の方向性や課題となる点。具体的な計画

→ 1-2（「組織的取り組み」の環境整備）
3-1（教職課程カリキュラムの編成・実施）

15

ICTの活用

1-2 施設・設備についての組織的取り組み

取り組み

◆ Teamsやパワーポイントの活用が多い。

たとえば、教科教育法における模擬授業→相互批評

◆ その他の機器としては・・・

- ・ 動画カメラ
- ・ 電子黒板の利用（理科教育法、英語科教育法）
- ・ デジタル教科書の利用（理科教育法、算数科教育法、算数など）
- ・ プログラミング（Scratch・・・理科教育法、MESH・・・理科）

16

ICTの活用

1-2 施設・設備についての組織的取り組み

課題

- ◆ ハードウェアの更新・アプリのライセンスの問題
- ◆ Wifi環境の整備（14号館や体育館など）
- ◆ ICT機器活用のための設備（モニター、スピーカーなど）

幼児教育学科では調査中。ただし、購入や各々のリテラシーが課題となると考えられる

- ◆ デジタル教科書、保育・学校現場で活用しているアプリの確認、使用スキルの向上のための指導の必要性。

17

ICTの活用

1-2 施設・設備についての組織的取り組み

課題＜デジタル教科書＞

＜令和4年度手引き＞
基準項目1-2の③
教職課程教育を行う上での
施設・設備が整備され、
ICT教育環境の適切な利用
についても可能となっている。

＜令和5年度手引き＞
基準項目1-2の③
教職課程教育を行う上での
施設・設備が整備され、
デジタル教科書を用いた教育
指導に対応することも可能
となっている。

18

ICTの活用

1-2 施設・設備についての組織的取り組み

課題<デジタル教科書>

予算的な面からも、教科教育法における全面的な導入は難しいと考えられる。

↓

「情報通信技術の活用」などにおいて、デジタル教科書の基礎的な取り扱いなどについて学ぶ

19

ICTの活用

1-2 施設・設備についての組織的取り組み

授業におけるICTの活用例

- ◆タブレットによるMicrosoft 365 (Teamsや/パワーポイント) の活用。
双方向型の学修ノートの提出に、Teams活用 (幼児教育学科)
不登校児童向けにオンデマンド配信用PPT作成についても検討している (家庭科教育法)
- ◆動画視聴のツールとして (Youtubeなど)
独立行政法人教職員支援機構で配信されている動画を活用、資習用ツール「教育ブラインニングシート」を提示し、グループワークを進め、よりよい授業のあり方について検討。(栄養)
- ◆フェイク動画を学生が探してきて、
授業中に比較検討し正しい情報の選択の仕方を学ぶ。(家庭科教育法)
- ◆その他
タブレットによる詩、BGM、環境音、画像による音楽づくり (幼児教育学科)

20

ICTの活用

3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

課題

- ◆チャットGPTなどの生成AIとどのように向き合うのか。
- ◆ICTの活用能力に差があるので、どのようにサポートしていくか。
→たとえば、教職員や教育サポーターに相談できる環境の整備など。
- ◆教員側もICTを活用する授業方法をもっと知りたい。
(家庭科では、教員間同士で活用について話し合っている)
- ◆ICT機器の活用と、アナログな部分のバランス。
・手書きのよさ (温かさ)
・手書きの方が記憶しやすかったり、ノートを作ることで考えが整理されることもある。
・ICT機器の活用で、ある意味受動的になる面もあるのではないか。

21

ICT機器を使えばいいものではない

図10 読解リテラシー
図11 数学リテラシー
出典：PISA, Students, Computers and Learning: Making the Connection. 2013.

佐藤学 (2021) 『第四次産業革命と教育の未来』岩波書店、49頁。

22

ICTの活用

<ICT活用のこれまで>

- 一斉指導の延長として・・・
- ・「撮る」「見る」など低負荷
- ・印刷替わりなどの補助的活用

<ICT活用の現在>

- GIGAスクール、「個別最適な学び」と「協働的な学び」
- クラウドの活用
- データの共有
- オンラインでの共同編集
- スケジュールの共有

高橋岡「学校教育におけるICT活用とGIGAスクール環境」
(関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会2021年度定期総会・合同研究大会資料)

23

ご静聴ありがとうございました！

24

Aさん

「私は、2月から教採勉強を始めましたが、2次試験が終わるまでの半年間は本当にあっという間でした。私は、受験勉強が苦手で、今まで受験を頑張ったという経験はありませんでした。しかし今回は、ともに助け合い高め合った仲間がいたから、頑張ることができました。この教採勉強で1番感じたことは、挑戦することです！練習をしていく中でうまくいかないことや失敗したと覚えることもあると思います。失敗することが怖かったし、恥ずかしくて、みんなの前でやってみる勇気が出ませんでした。だけど今は、途中で中断しても間違っしてしまっても、その挑戦の中で得るものがあれば、失敗することにも意味があると思います。最初から、なんでもうまくいくわけがありません。特に模擬授業や集団討論は相手がいないと練習にならないし、勇気を出さないと始まりません！だから、失敗することを恐れずに、どんどん挑戦してほしいです！そして、たくさん失敗しながら成長し、試験では自分が持っている力を最大限に発揮できれば一番いいのかなと思います。また、私にとって夏休み毎日のように学校に集まってみんなと頑張った教採対策は大学生活のなかで一番頑張ったことであり、一番の思い出でもあります。みんなと同じ目標に向かって頑張る機会は学生ならではの、これからの人生でもなかなか経験できないんじゃないかなと思います。だから、楽しむことを忘れずにみんなでちからをあわせて乗り越えてください！そして、教員になりたいという気持ちを忘れずに！！応援しています！」

Bさん

私が所属している横山ゼミでは、毎日ゼミのグループLINEにおはようスタンプを送ったり、試験の時にはお互いに応援するスタンプを送り合ったりなどしていました。グループLINEに送られてくるスタンプを見ると、「みんなも頑張っているから、私も頑張らなくちゃ！」という気持ちになったため、長期にわたる対策期間もモチベーションを保つことが出来たのだと思います。また、二次対策期間には友達どうして面接対策や模擬授業を行い、お互いにアドバイスをし合っていました。みんなが本気だからこそ、その友達の本気に感化されて、現状に満足せず頑張りが続けることが出来たのだと思います。この教員採用試験までの日々を経て、より一層児童教育学科の皆との仲が深められたように感じ、嬉しい気持ちになりました。

Cさん

二次試験に向けては、先生方の大きな協力のもとたくさん練習させていただける機会を設けていただきました。私自身面接の経験がなかったので不安な部分はとてもありましたが、何度も練習を繰り返すうちに大きな自信に繋がると覚えます。面接練習のその場だけではなく、1度聞かれたことは絶対に答えられるようにすることがとても大切です。練習をして下さる先生に成長した姿を見せるぞという想いで毎回の練習に臨むといいと思います。二次試験対策は先生方の協力のおかげで成り立っています。どんなときも感謝の気持ちを忘れず、全力で取り組んでください！

D さん

個人面接対策は必ず参加してください。先生たちもボランティアで行っていただいています。先生方の時間を割いてまで私たちが「受かってほしい」の気持ちで行っていただいています。行きたくない気持ちは分かりますが、そこを頑張れば自信に繋がります！私自身受験で面接を避けて通ってきた人生だったのですごく嫌でしたが、個人面接練習をしていくうちに段々と自信ができました。面接と模擬授業どちらにも言えることなのですが、回数を重ねることが1番です。川村には元ベテラン教員が沢山いるし、同じ志の仲間もいます。アドバイスをたくさんもらい、改善することで自信に満ち溢れ、受験が逆に楽しく思えます。また、対策をしっかりと行っている川村の皆さんなら怖いものなしです！！近い将来一緒に働けることを楽しみにしています^^

E さん

まず1次試験に向けての対策はとにかく勉強です（簡単に言いましたが、私はこれを習慣化するのに苦戦しました）。私は勉強に関してずっと1人で行うものだと思っていましたが、教採対策では毎日友達と夜まで研究室に残って勉強していました。わからない問題があればすぐにゼミ担の先生や友達に聞くことが出来ますし、友だちが勉強している姿を見て自分もやらなければならない環境をつくりました。また私は、変にプレッシャーを感じ気負いして気持ちが沈んでしまうなど一人で抱え込んでしまう傾向があったので、意識的に誰かと過ごすようにしていました。

F さん

1次試験から2次試験まで、自分のできる限りの準備ができたと思います。1次試験は模試の結果も含め、始めた当初は全く自信がありませんでした。春休み、ゴールデンウィーク、夏休み、毎日の放課後にコツコツ勉強を積み重ねました。最初は問題を見て、何の知識を使って解けば良いのか、自分は何が分からないのかさえも分かりませんでした。そんな中でも、挫けず、先生方や友達に聞きながらひとつひとつ解決していくことで、できることが増えていきました。過去問や参考書を解きながら、できない部分よりもできる部分の方が多くなっていったとき、達成感や自信につながったと思います。中学時代から勉強をするという習慣が全く身についていなかった私ですが、1次試験までの半年間は計画的に勉強に取り組めていました。最初は嫌々で試験を受ける実感もありませんでしたが、既に私には「やる」という選択肢しか用意されていないので、最初はどれだけ眠くても、しんどくても、2時間は机に向かうとノルマを決めたりして、なんとか毎日取り組んでいました。そしてゼミで先生を頼ったり、友達を誘ったりして一緒に勉強することが本当に大切です。勉強のハードルを下げて、同じ問題を話し合いながら一緒に解くだけでも、身になると思います。勉強の習慣がつけば、もうあとは自分の不安な箇所や納得いかない部分を詰めれば良いのでこっちのモンです。

Gさん

模擬授業も、先生方と友達とたくさん練習しました。6分間という短い時間の中でどれだけ見せることができるかが勝負だと思い、各教科の板書や発問をよく練り、より良い授業ができるように練習しました。本番では、緊張しましたが、練習通りにできたと思います。強いて言うのであれば、学習問題まで書き終えるところまで行きたかったです。児童役も積極的に参加しました。他の受験者の方の授業を、本当に児童になったつもりで受けたので楽しかったです。また、他の受験者の方の授業を見ると、たくさん練習して良かったと思いました。個人面接も模擬授業も練習をたくさんして自信をつけることでうまくできたと思います。

Hさん

私は一人で勉強することを好む方でしたが、友人と勉強することでより自分の知識が深まることを実感しました。一人で行き詰まったとしても手を差し伸べてくれることが川村の学生なので一人で頑張ろうとせず、周りに頼りながら切磋琢磨していったほしいと思います。皆で学んだことはずっと自分の自信に繋がります。たとえ、会場で一人になったとしても自信がもてることが川村の良さです。自分と先生と仲間を信じて頑張ってください。

Iさん

勉強も面接練習も、ゼミの仲間や友達と一緒にやると勉強になるし頑張れました。どうしてもやる気が出ないときは、教職教養や集団討論に関する内容を話すことでも勉強と頭の整理になりました。面接に関しては、とにかく練習することが大切だと思います。

Jさん（目白キャンパス）

自分にできることを全力でやる、そう思いながら頑張った受験期間でした。1人で必死に勉強し続けることがしんどいと感じることも多くストレスに押しつぶされそうになる日もありました。ですが、一次試験までは田中先生や柴田先生、小山先生がサポートしてくださり、二次試験では、田中先生、向野先生、加藤先生に面接指導していただき、キスチャック先生には実技試験の対策をして頂きました。我孫子に行った3日間は、試験に向かって一生懸命に取り組む皆さんの存在に救われていました。先生方のサポートなしにはここまで頑張れなかったな・・・ととても感じています。

勉強をしているうちに、自信がなくなったり焦ったり不安になったりいろいろな感情に追われることもあると思います。でも、一人じゃないことを忘れないでください。頑張っている皆さんに全力でサポートしてくださる先生方が川村にはたくさんいます。それに、やった分だけ結果は出ます。自分の「なりたい」をかなえるために頑張ってください。応援しています。何かあったら、いつでも話を聞きます。みんなで頑張って乗り越えましょう！

【資料２－２－１ データ６】千葉県教育庁主催「千葉県・千葉市公立学校教員採用候補者選考説明会」開催通知

差出人	教職センター
カテゴリ	修学支援室
件名	3-4年次生の教職課程履修者へ
本文	下記の日程で、「千葉県・千葉市の教員採用試験に関する説明会」を行います。 現在４年生で今年度教員採用試験を受ける方は、必ず出席して下さい。 なお、３年生で一部受験可能となる選考を新設することになったため、 詳細を説明して下さる予定となっていますので、３年生も必ず出席して下さい。 記 日 時：２０２３年４月２６日（水） 【１６：１０～１７：４０】 場 所：１１１０４教室 講 師：千葉県教育庁 教職員課 任用室 管理主事 持ち物 ２０２３年度の教員採用試験実施要綱 ⇒千葉県教育委員会のHPよりダウンロード可 筆記用具 【注】当日はリクルートスーツを着用のうえ出席してください。 当日出席できない場合は、事前に担当教員へ必ず申し出て下さい。 以上

小・中・高 教職課程履修者対象

２０２３年１１月１日

教職センター

千葉県教育庁主催「先生っていいもんだ」実施について

内 容： １.千葉県の求める教員像について
２.教育施策について
３.教員研修について
４.教員採用候補者選考の現状と今後について
５.教員の魅力
６.望ましい教員の在り方 等

講 師：千葉県教育庁 教育振興部 教職員課任用班
管理主事 吉野 加津美 先生

日 時：２０２３年１２月１３日（水曜日）
１６時１０分～１７時４０分

場 所：１１１０４教室
※ 万一変更となる場合は再度お知らせします。

※原則として、小（１～３年）・中・高（２・３年生）の教職課程履修者は、
必ず出席してください。

※当日は筆記用具を持参のうえ、リクルートスーツ着用で参加してください。

以 上

小・中・高 教職課程履修者対象

２０２３年９月１３日

教職センター

千葉県教育庁東葛飾事務所主催「東葛地区の先生になろう」実施について

講 師：千葉県教育庁 東葛飾教育事務所

日 時：２０２３年１０月１１日（水曜日）
１６時１０分～１７時４０分

場 所：１１１０４教室
※ 万一変更となる場合は再度お知らせします。

※原則として、小（１～３年）・中・高（３年生）は、必ず出席してください。
※当日は筆記用具を持参のうえ、リクルートスーツ着用で参加してください。

以 上

2023 年度 夏期教員採用試験対策講座 実施結果

《小学校・中学校・高等学校 全教免共通》

教職教養	9/4(月)	9/5(火)	9/8(金)
1 限 10:00～ 11:00	教採オリエンテーション (9:30 開始) 【田中 聡先生】	教育施策・ 生徒指導など 【山口 祐子先生】	特別支援教育 【向野 光先生】
2 限 11:10～ 12:10	教育法規 【田中 聡先生】		
3 限 13:00～ 14:00	自己アピール・ 志望動機・集団面接 【横山 悦子先生】	教育心理 【佐藤 哲康先生】	学習指導要領等 【柴田 万里子先生】
4 限 14:10～ 15:10		教育史 【山口 恭平先生】	

* 使用教室： 4105 教室

春期 教員採用試験対策講座時間割

《1 コマ 90 分》

英語科教免取得希望者用

〔中高〕	2/5（月）	2/8（木）	2/9（金）
1 限 8：40～ 10：10		英会話 【W.キスチャック先生】	文法・語法 （動名詞・分詞） 【菱田信彦先生】
2 限 10：20～ 11：50		英会話 【W.キスチャック先生】	文法・語法 （仮定法） 【菱田信彦先生】
3 限 12：50～ 14：20	文法・語法 （助動詞） 【倉林直子先生】	長文読解 【小泉朝子先生】	文法・語法 （不定詞） 【佐藤翔馬先生】
4 限 14：30～ 16：00	文法・語法 （比較） 【倉林直子先生】	長文読解 【小泉朝子先生】	文法・語法 （関係詞） 【佐藤翔馬先生】

* 使用教室：ゼミ室 2

春期 教員採用試験対策講座時間割

《1 コマ 6 0 分》

国語科教免取得希望者用

〔中高〕	2/5（月）	2/6（火）	2/8（木）
1 限 10：00～ 11：00	漢字・文法 （概説・問題） 【長崎靖子先生】	古文 （概説・問題） 【咲本英恵先生】	文学史（近現代） （概説・問題） 【山名順子先生】
2 限 11：10～ 12：10	漢字・文法 （概説・問題） 【長崎靖子先生】	古文 （概説・問題） 【咲本英恵先生】	文学史（近現代） （概説） 【山名順子先生】
3 限 13：00～ 14：00	現代文 （概説・問題） 【長崎靖子先生】	古文 （概説・問題） 【咲本英恵先生】	漢文 （問題・解説） 【山名順子先生】
4 限 14：10～ 15：10	現代文 （概説・問題） 【長崎靖子先生】	古文 （概説・問題） 【咲本英恵先生】	漢文 （問題・解説） 【山名順子先生】
5 限 15：20～ 16：20	現代文 （概説・問題） 【長崎靖子先生】	文学史（古典） （概説・問題） 【咲本英恵先生】	漢文 （概説・問題） 【山名順子先生】

* 使用教室：4 1 0 2 教室

春期 教員採用試験対策講座時間割

《1 コマ 6 0 分》

社会科系教免取得希望者用

〔中高〕	2/5（月）	2/8（木）	2/9（金）
1 限 10：00～ 11：00	世界史 【大西克典先生】	日本史 【堀部猛先生】	地理 【高津純也先生】
2 限 11：10～ 12：10	世界史 【大西克典先生】	日本史 【堀部猛先生】	地理 【高津純也先生】
3 限 13：00～ 14：00	世界史 【辻明日香先生】	日本史 【長崎健吾先生】	地理 【高津純也先生】
4 限 14：10～ 15：10	世界史 【辻明日香先生】	日本史 【長崎健吾先生】	地理 【高津純也先生】
5 限 15：20～ 16：20	倫理 【庄司武史先生】	政治 【西川誠先生】	経済 【手塚崇子先生】

* 使用教室：4 1 0 3 教室

春期 教員採用試験対策講座時間割

《1 コマ 90 分》

小学校教免取得希望者用

〔小学校〕	2/5（月）	2/7（水）	2/8（木）
1 限 8：50～ 10：20	国語 【横山悦子先生】	社会 【山口恭平先生】	算数 【田中聡先生】
2 限 10：30～ 12：00	国語 【横山悦子先生】	社会 【山口恭平先生】	算数 【田中聡先生】
3 限 12：50～ 14：20	理科 【加藤美由紀先生】		英語 【小山久美子先生】
4 限 14：30～ 16：00	理科 【加藤美由紀先生】		英語 【小山久美子先生】

*使用教室：4 1 0 4 教室

春期 教員採用試験対策講座時間割

《1コマ60分》

家庭科教免取得希望者用

〔中高〕	2/5（月）	2/7（水）	2/8（木）
1 限 10：00～ 11：00	家族分野 （概説・問題） 【佐藤真弓先生】	衣生活分野 （概説・問題） 【齋藤美重子先生】	消費・環境分野 （概説・問題） 【齋藤美重子先生】
2 限 11：10～ 12：10	家族分野 （概説・問題） 【佐藤真弓先生】	衣生活分野 （概説・問題） 【齋藤美重子先生】	消費・環境分野 （概説・問題） 【齋藤美重子先生】
3 限 13：00～ 14：00	2次試験対策 調理実習 【佐藤先生・齋藤先生】	食生活分野 （概説・問題） 【齋藤美重子先生】	2次試験対策 被服実習 【高橋裕子先生】
4 限 14：10～ 15：10	2次試験対策 調理実習 【佐藤先生・齋藤先生】	食生活分野 （概説・問題） 【齋藤美重子先生】	2次試験対策 被服実習 【高橋裕子先生】
5 限 15：20～ 16：20	2次試験対策 調理実習 【佐藤先生・齋藤先生】	住生活分野 （概説・問題） 【齋藤美重子先生】	2次試験対策 被服実習 【高橋裕子先生】

*使用教室：4105教室

令和 5 年度実施 令和 6 年度教員採用選考 2 次対策実施計画

教職センター

1 ねらい

- (1) 全員で合格を目指す。(教採突破チーム！)
- (2) 互いに補い、助け合って教採突破を目指す！

2 実施予定

- (1) 前期授業内での実施 7 月 10 日 (月) ～7 月 26 日 (水) →原則 5 限
- (2) 夏季休業内での実施 7 月 27 日 (木) ～8 月 4 日 (金) →1 限～4 限
- (3) 2 次対策講座の実施 8 月 7 日 (月) ～8 月 9 日 (水) →1 限～4 限
- (4) 直前の対策講座実施 (中高) 8 月 16 日 (水) ～18 日 (金) →1 限～4 限
(小) 8 月 21 日 (月) ～25 日 (金) →1 限～4 限

3 会場

- (1) 7 2 1 8 室 (模擬授業会場) 7 2 1 9 室 (個人面接会場)
- (2) 7 2 1 8 室 (模擬授業会場) 7 2 1 9 室 (個人面接会場)
- (3) 4 2 0 2 室、4 2 0 3 室、4 2 0 4 室、4 3 0 1 室、4 3 0 2 室
- (4) 7 2 1 8 室 (模擬授業会場) 7 2 1 9 室 (個人面接会場)

4 内容

- (1) 7 月 10 日 (月) ～7 月 26 日 (水)
 - 16:10～17:40…①面接ノートづくり・・・7 2 1 9 室
 - ②3 人一組で個人面接練習・・・7 2 1 9 室
 - ③模擬授業の構想づくり・・・7 2 1 8 室
 - ④6 人 1 組で模擬授業の実践・・・7 2 1 8 室
 - ⑤教員との個人面接・・・7 2 1 9 室
- (2) 7 月 27 日 (木) ～8 月 4 日 (金)
 - 8:50～10:20…①教員との個人面接 (1 組 4 人)・・・7 2 1 9 室
 - ②教員との模擬授業 (1 組 6 人)・・・7 2 1 8 室
 - 10:30～12:00…①②に同じ
 - 12:50～14:20…①②に同じ
 - 14:30～16:00…①②に同じ
 - ※1 日個人面接 4 組 16 名、模擬授業 4 組 24 人
 - ※茨城受験者は小論文を並行して行う！ (1 日 2 本～3 本…合計 30 本を目指す！)
- (3) 8 月 7 日 (月) ～8 月 9 日 (水)
 - 2 次対策講座は別紙参照

(4) (中高) 8月16日(水)～18日(金)…(小)は自由に

8:50～10:20…①教員との個人面接(1組4人)・・・7219室

②教員との模擬授業(1組6人)・・・7218室

10:30～12:00…①②に同じ

12:50～14:20…①②に同じ

14:30～16:00…①②に同じ

(小) 8月21日(月)～25日(金)→1限～4限

8:50～10:20…①教員との個人面接(1組4人)・・・7219室

②教員との模擬授業(1組6人)・・・7218室

10:30～12:00…①②に同じ

12:50～14:20…①②に同じ

14:30～16:00…①②に同じ

5 担当指導者(変更有)

※後日連絡します！

6 その他

(1) 面接用のノート、筆記用具を用意すること

(2) 出席できないとき、予定していて欠席する場合は必ず連絡を入れること！

(3) 予定された時間以外は、自主的に学生同士で話し合い、練習すること！

令和 6 年度教員採用選考について

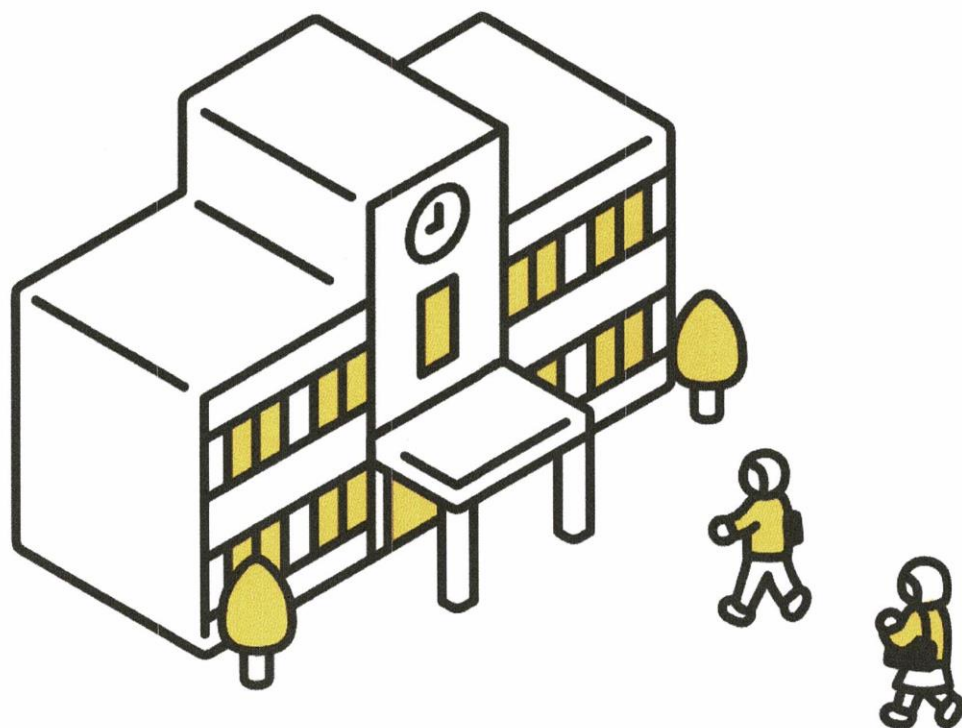
教員採用選考合格率過去最高！教員就職率 100%

【過去3年間の教員採用選考の結果】

		1次			2次		
		受験者	合格者	%	受験者	合格者	%
令和 3 (2021)	児童教育学科 (小学校教諭)	14人	13人	93%	13人	12人	92%
	中高教職課程 (中・高校教諭)	9人	4人	44%	4人	2人	50%
令和 4 (2022)	児童教育学科 (小学校教諭)	18人	17人	94%	17人	11人	65%
	中高教職課程 (中・高校教諭)	11人	10人	91%	10人	4人	40%
令和 5 (2023)	児童教育学科 (小学校教諭)	24人	21人	88%	21人	20人	95%
	中高教職課程 (中・高校教諭)	14人	8人	57%	8人	5人	63%

【今年度実施された教員採用選考を振り返り】

- ・ 4 月以降は、各ゼミ教室や図書館で空き時間や放課後に 1 次試験、2 次試験の対策を行う学生の姿が少なくなかった。
- ・ 「教員採用選考は団体戦！」を合言葉にここ数年取り組んできており、グループで学び合ったり、2 次対策の練習を行ったりすることができた。
- ・ 中高教職課程を履修している学生は、学科ごとに声をかけあって 1 次の専門科目の対策を行っていた。
- ・ 中高教職課程の学生も学科の枠を越えて、他学科と一緒に面接や模擬授業、小論文等の対策をおこなうことができた。
- ・ 教員不足が大きな問題となっているが、教員採用については、今年度、過去 3 年間でもっとも高い合格率となった。
- ・ 残念ながら不合格だった学生も全員教壇に立つので、教員希望者の教員就職率は 100%を継続している！
- ・ 3 年生の前倒し選考も東京都、千葉県、茨城県で行われた。
結果は、11 名受験し、10 名（英語 2 名、家庭科 4 名、小学校 4 名）が合格できた。



令和 5（2023）年度実施
教員採用選考試験体験記

児童教育学科

13 期生

令和 5（2023）年度
教員採用選考試験体験記

児童教育学科 13 期生

目 次

千葉県（19 名）	1～121
茨城県（ 2 名）	122～133
福島県（ 1 名）	134～140
新潟県（ 3 名）	141～156
中学校・高等学校（ 1 名）	157～162

川村学園女子大学 G オフィス へのお誘い (第 1 次案内 R6.1.10)

ペーパーテストを実際につくってみようーその考え方と方法ー
＜「指導と評価の一体化」の確実な実現を目指して＞

- 日 時 令和 6 年 2 月 3 日 (土) 午前 10 時から午後 3 時 30 分 (随時入退場可))
- 会 場 川村学園女子大学 教室
- 参加者 どなたでもどうぞ。(現役の教員、学生その他)
- 講 師 田中孝一 (元児童教育学科及び元日本文化学科)

1 主 旨

ペーパーテストの問題の作成の力を付ける

読むことの指導の成果を的確に測るためにはペーパーテストの活用が欠かせない。
その作成の考え方と方法の基礎を学ぶ。

3 対象校種等

小学校、中学校、高等学校、特別支援学校 (校種不問)

4 内容と時程

- (1) 10－11 時 概要説明 (学習評価の考え方と実際、グループ編成 (学年、单元ごとに))
- (2) 11－15 時 30 分 ペーパーテスト問題作成作業 (休憩・昼食 12－13 時)
 - ① 11－12 時 読むことの単元の選択、指導目標の設定確認と設問構成の試作 (休憩)
 - ② 13－14 時 設問の具体の作成 (記述式、選択肢式、短答式などいろいろな設問形式を試みる。)
 - ③ 14－15 時 グループ内での相互助言、修正、とりあえずの完成
- (3) 15－15 時 30 分 全体交流 (相互評価、問題改善など)、まとめ

＜ポイント！＞

- ア 各設問は必ず学習指導要領の指導事項と対応させる。
- イ 単元の指導目標の実現状況をみる設問は必ず設定する。(最終設問としてなど。)

5 持参する物 (予定)

- ペーパーテストを作成する教科書及びその関連資料
- ※ 可能な限り、現物の全体 (当該单元等のコピーではなく。)
 - ※ 現在の受け持ちの学年又は過去に受け持った学年のもの

- ① 学習指導要領解説国語編 (当該学年)
- ② 問題を作成する単元の収められている教科書
- ③ 当該教科書の発行者の「編修趣意書 (教育基本法との対照表) (学習指導要領との対照表、配当授業時数表)」
 - ※ 教科書発行者の HP 又は文部科学省の HP から DL 又は印刷
- ④ 国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』 (小学校国語など) ※ 国研 HP にもあり。
- ⑤ ②の教師用指導書 ※ 児童教育学科研究室にあり。
- ⑥ 教科書発行者 (会社) 等の单元テスト等の見本
- ⑦ 全国学力・学習状況調査『解説資料 小学校国語』冊子 (各学校に令和 5 年度まで配付済み。令和 6 年度以降は国研 HP 上。) ※ 児童教育学科の資料室に過去のものあり。
- ⑧ その他必要と判断する資料

我孫子市立第二小学校 2年生の大学見学

11月15日（水） 雨天の場合は、11月22日（水）

スケジュール

予定時刻	グループ	人数	合計	見学	誘導
9:30 9:50 質問タイム も込み	1組 2班	児童5名（保護者2名 様 様）	児童10人 保護者3人	向野先生 進路指導・キャリア教 育 4102教室	さん さん
	3組 1班	児童5名（保護者1名 様）			
	2組 1班	児童5名（保護者1名 様）	児童14人 保護者3人	田中 聡先生 総合的な学習の時間の 指導法（中高） 5106教室	さん さん
	2組 2班	児童4名（保護者1名 様）			
	2組 3班	児童5名（保護者1名 様）			

誘導担当さんへ 当日は、二人一組で小学生を案内してあげてください。

時間厳守。質問タイムが始まらないようなら、先生に声かけをお願いします。

9:10 集合 学生研究室（大きいかばんを預かります。貴重品は身に付けてください）

9:20 正門 小学生をお出迎え

一人が先導。一人は真ん中あたり（トイレに行きたい子がいたら連れて行き、教室へ送り届ける）

質問タイム：回答は、別紙の通り。誰も答えられない場合は、答えてあげてください。

9:50 正門 小学生をお見送り

次の見学場所が混んでいる場合は、大学で時間調整されることになっています。

★ 12号館前の中庭、学生食堂（14号館1階）にいることは許可されています。

服装 私服でよい。

アクセサリは控えめに。

注意 万一、小学生がケガをした場合は、引率の保護者または教室の先生に報告する。

誘導のひとりが、健康支援室（8号館1階）へ案内する。児童のお名前を確認しましょう。

看護師 望月（モチヅキ）さんに診てもらう。ケガをした状況を見ていた場合は学生から望月さんに伝えてください。

★ 手当を最優先する。

以上